

2018（平成30）年度

# 東北学院大学外部評価報告書

2019（平成31）年3月

東北学院大学外部評価委員会

## 目 次

2018（平成 30）年度東北学院大学外部評価委員会の活動及び報告書について .....	3
I. 学生インタビューの概要と方法 .....	5
II. 学生インタビュー結果に対する外部評価委員の所見 .....	8
1. 学生の学習活動について .....	8
2. 学生生活について .....	9
3. インタビュー全般での所見 .....	10
4. その他所見 .....	12
III. 2018(平成 30)年度東北学院大学外部評価委員会からの総評 .....	13
【参考資料】 .....	15
①2018(平成 30)年度東北学院大学外部評価委員会 名簿 .....	15
②東北学院大学外部評価委員会規程 .....	16
③第 3 期東北学院大学学部評価 概要 .....	18
④2018(平成 30)年度東北学院大学外部評価委員会 議事録（第 1 回、第 2 回） .....	19

## 2018（平成 30）年度東北学院大学外部評価委員会の活動及び報告書について

2019（平成 31）年 3 月 8 日  
東北学院大学外部評価委員会

### 1. 東北学院大学外部評価委員会

東北学院大学外部評価委員会（以下、「本委員会」という。）は、東北学院大学外部評価委員会規程」に基づき、東北学院大学に設置された委員会である。本委員会は、学外の第三者による外部評価を実施する委員会であり、評価を通じて、同大学の教育・研究水準の向上及び組織の活性化に資する提言を行うことを目的としている。

第 3 期の本委員会は、関内隆東北大学高度教養教育・学生支援機構特任教授を委員長として、2016（平成 28）年度に発足した（任期：2016（平成 28）～2018（平成 30）年度）。構成員は、下記のとおりである。

委員長：関内 隆（東北大学高度教養教育・学生支援機構特任教授）  
副委員長：木須 八重子（公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長）  
委員：合田 隆 史（尚綱学院大学学長）  
委員：宮原 育 子（宮城学院女子大学現代ビジネス学部長）  
委員：菅原 裕 典（株式会社清月記代表取締役社長）  
委員：八浪 英 明（株式会社河北新報社社長室長）  
委員：高橋 仁（宮城県教育委員会教育長）

### 2. 活動及び評価の方法

本委員会は、「東北学院大学外部評価委員会規程」に基づき、2018（平成 30）年度に外部評価を実施した。

2018（平成 30）年度においては、2017（平成 29）年度外部評価報告において、内部質保証システムの体制は出来上がっていると評価した。今後、教育・研究・社会貢献等の質保証及び質の向上に向けた具体策を着実に実施され、専門教育を土台にグローバルな視点を備えた教養ある人材、地域の政治・経済・文化などの担い手となる人材を輩出し続けることに期待する。そして、構想中のキャンパス整備計画を推進する中で地元密着型の地域貢献と、周辺地域一帯のまちづくりに貢献する大規模大学として、細部にわたるまで「血の通った運営」を行い、大学のブランド力を向上させ東北地方の発展に尽くす地元の大学としての役割を確認する。

そこで 2018（平成 30）年度の外部評価では、本学の教育が在学生や社会からの要請に込められているかについて「学生インタビュー調査」を実施する。

この、インタビュー調査をもとに本学の教学上の 3 つの方針及び教育の理念・目的の適切性について外部評価を行い、大学の活性化及び取り組みの継続的改善に資する提言を行う。

## 2018(平成30)年度外部評価活動スケジュールの概要

日 付	活動内容
2018(平成30)年6月21日(木)	第1回外部評価委員会開催
2018(平成30)年10月31日(水)～ 2018(平成30)年11月8日(木)	学生への事前アンケートを「基本情報・学習活動」、「大学生活」、「課外活動」の3項目について実施
2018(平成30)年11月19日(月)	学生への事前アンケート集計結果の送付及び学生インタビュー当日質問提出依頼
2018(平成30)年11月29日(木)	第2回外部評価委員会開催 学生インタビュー実施
2019(平成31)年1月11日(月)	第2回外部評価委員会を受けての「学生インタビュー調査に係る報告書」及び「第3期東北学院大学外部評価に対する所感」、「第4期東北学院大学外部評価に対する引き継ぎ事項」を各委員より提出
2019(平成31)年1月～2月中旬	各委員からの講評及び総評に基づき委員長による総評作成
2019(平成31)年2月～3月	『2018(平成30)年度東北学院大学外部評価報告書』編集
2019(平成31)年3月8日(金)	第3回外部評価委員会開催 『2018(平成30)年度東北学院大学外部評価報告書』を大学に提出

### 3. 本報告書の構成

本報告書は、下記の通りに構成されている。

- I. 学生インタビューの概要と方法
- II. 学生インタビュー結果に対する外部評価委員の所見
- III. 2018(平成30)年度東北学院大学外部評価委員会からの総評

#### 【参考資料】

- ① 2018(平成30)年度東北学院大学外部評価委員会 名簿
- ② 東北学院大学外部評価委員会規程
- ③ 第3期東北学院大学外部評価委員会 概要
- ④ 2018(平成30)年度東北学院大学外部評価 議事録(第1回、第2回)

#### 【別冊資料】

- A 事前アンケート集計結果
- B 学生インタビュー集計結果
- C 事後アンケート集計結果

※別冊資料Aの自由記述及び別冊資料Bについては、匿名性を確保したインタビューであり個人情報等も含まれるため外部評価委員会として非公開とすることとする。

## I. 学生インタビューの概要と方法

### (1) 学生インタビュー対象学生

学部学生を対象として、学部学科構成・男女比を考慮して学科長に選出を依頼し、全体で61名選出した。

参加学生の学部学科及び性別は下図の通りである。

文学部								
	英文学科		総合人文学科		歴史学科		教育学科	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1年生				○	○		○	
2年生		○				○		
3年生	○		○	○	○			
4年生	○	○	○			○		

	経済学部				経営学部		法学部	
	経済学科		共生社会経済学科		経営学科		法律学科	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1年生	○			○	○			○
2年生		○	○			○	○	
3年生	○			○	○			○
4年生		○	○			○	○	

	工学部												
	機械知能工学科		電子工学科		電気情報工学科		環境建設工学科		電気電子工学科		情報基盤工学科		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1年生										○	○	○	○
2年生									○				
3年生	○	○		○		○	○	○					
4年生	○	○	○		○		○	○					

	教養学部							
	人間科学科		言語文化学科		情報科学科		地域構想学科	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1年生	○			○		○		○
2年生		○			○			
3年生	○			○	○		○	○
4年生		○	○	○		○	○	

	男	女
1年生	6	8
2年生	4	5
3年生	10	9
4年生	10	9
合計	30	31

	男	女
文学部	7	6
経済学部	4	4
経営学部	2	2
法学部	2	2
工学部	8	8
教養学部	7	9
合計	30	31

## (2) 事前アンケート

授業内で活用している LMS (Learning Management System) である「manaba」を用いた事前アンケートを実施した。

アンケート設問は、「学生基本情報」・「学習活動」、「大学生生活」、「課外活動」を問う設問にて設定を行い、参加者 61 名全員の回答を得ることができた。

事前アンケートの集計結果は、別冊資料Aの通りである。

## (3) 学生インタビュー

学生インタビューは、講義中にクリッカーやアンケートをリアルタイムでコミュニケーションが行えるシステム「respon」を用いて双方向性のあるインタビューを行った。

事前アンケートを基礎とし、事前に外部評価委員会にて「学生基本情報・学習活動」、「大学生生活」、「課外活動」についての当日質問内容を設定し、進行状況によって委員からの追加質問を「respon」及び学生からの挙手による質疑応答によって実施された。

LMS を活用し、参加者全員が回答した上で委員が学生への発言を促すなど、ツールを介したインタラクティブな議論を試みた。結果として、委員からも事前アンケートと当日の学生の考えや意見を聴取することができ大学当局に対し十分な聞き取り調査ができたと考える。

質疑応答内容は、参考資料④第 2 回外部評価委員会議事録及び別冊資料 B による。

開催日時：2018(平成 30)年 11 月 29 日 (木) 14:30～16:30

(第 2 回外部評価委員会の中で実施)

参加学生：60 名 (当日欠席 1 名)

出席者：外部評価委員

関内隆委員長、木須八重子副委員長、  
合田隆史委員、菅原裕典委員、宮原育子委員、八浪英明委員

大学側出席者：(陪席)

松本宣郎 (学長)  
千葉昭彦 (学務担当副学長)  
原田善教 (点検・評価担当副学長)  
村野井仁 (文学部長)  
前田修也 (経済学部長)  
齋藤善之 (経営学部長)  
陶久利彦 (法学部長)  
中沢正利 (工学部長)  
水谷 修 (教養学部長)  
阿部重樹 (学長室長)  
菊地祐一 (総務部長)

事務局：齋藤吉重、水野麻美、櫻井卓、齋藤涉 (以上、学長室事務課/IR 課)

#### (4) 事後アンケート

参加学生に対して、参加した感想や当日の進行、学生インタビューの必要性などを問うアンケートを行い、概ね参加したことに対して満足を得た。さらに学外の第三者が中立な立場で大学への意見要望を聞く機会として必要と感じる学生が多い。

また、「respon」を使用したことのない学生へのサポート体制、また、学生インタビューに関する事前説明について課題を残した。

事後アンケート回答者は60名の参加者のうち59名であった。事後アンケートの集計結果は別冊資料Cである。

## II. 学生インタビュー結果に対する外部評価委員の所見

### 1. 学生の学習活動について

#### 【関内委員】

授業内容については、「興味深い」「どちらかといえば興味深い」がいずれの科目群でも7割を超え、特に専門科目では「興味深い」が5割を超えており、授業に対する一定の満足感を確認できる。とはいえ、一方通行的な講義に対する不満、交通手段遅れの遅刻扱いや出席を取らない授業、成績評価に関わる問題の要望・意見など、多様な声が上がっており、大学は真摯にこれらの要望等について精査、検討することが求められる。

さらに、授業内容のレベルに関して自由記述では教養科目、専門科目ともに授業レベルが低いとの声が上がっていた。他方で、授業についていけない学生も存在するという学力・学習意欲の格差問題が現に存在しており、学生インタビューでは補習授業クラスの設置に関する是非等も話題となった。大学側はこれらの問題に今後、取り組む必要があると考える。

#### 【木須委員】

最初のアンケートでは「授業についていけない」という回答も若干見られましたが、当日の「大学への期待」や「学習意欲を上げるには」という質疑の中では、授業のレベルを上げるべきという声が少なからずあった。

学習レベルをどこに合わせるかは、現場を担う方々の判断によるだろうが、学生の現状に合わせて下げるのではなく、高等教育の場としてふさわしい内容を保持してよい。

学習レベルに関しては、教える側の人間的な魅力や研究者として積み上げてきた知見が「学びの楽しさ」の体験につながっていて、ここに学生の知的成長やレベルの向上の可能性のヒントがある考える。

#### 【合田委員】

学部・学科やキャンパスによって違うのかもしれないが、学生の期待水準にかなり開きがあることが見受けられる。

#### 【宮原委員】

東北学院の学生たちは、総じて真面目に勉学に励んでいることが分かった。学生たちのアンケートやインタビューからは、一部の講義への不満などの意見も見られたが、それは逆に捉えると彼らがいかに大学の講義に期待しているかということである。

その一方で、学生たち自身が講義以外の学びを自ら展開できているかが気になった。大学のひとつひとつの講義の充実はもちろんであるが、講義以外に学生たちが自主的に学びを広げていく場や機会の誘導も必要ではないかと思った。土樋キャンパスでは、ラーニングcommonsも整備されているので、今後もこうした学習の場を学生たちが積極的に活用していくことが大切だと考える。

#### 【菅原委員】

参加した学生は、一生懸命に学ぶ意識は高いと思われる。

しかし、一部の学生については、大学を学ぶ場とっていない学生もいるように感じた。大変もったいないため、学校全体として改善に取り組んでいただければ幸いである。

#### 【八浪委員】



本来、学習活動について回答する内容と思われるものが、次の「大学生活」に関する質問に対する回答として出てきている点に、今回のインタビュー設定の問題点が表れていると思う。

つまり、大学側の聞きたい点と学生側の「言いたい点」のずれの存在。大学は今の講義・授業スタイルを基本的に「是」としたうえで、それぞれに対する評価を求めているのに対し、学生は個々の授業のレベルというそもそもの「質」を問おうとしている。この「意識のずれ」に対し、教職員側はもっと敏感であるべきだと思う。

#### 【高橋委員】

入学前後の意識の変化に関する記述などを見ると、学習への意欲や取組の状況について二極化が見られるのではないか。大学として、高校段階までの学び直しのニーズへの対応に取り組んでいるということは大いに評価できる点であるが、その上で、今後はより高い知的好奇心に応え得る学習内容の提供という点からの対応も必要と考える。

もとより、大学生活における「学び」においては、高校までとは異なり、正に自ら探求していく姿勢が求められる。大学の講義の質的改善が、学生のさらなる「主体的・対話的で深い学び」につながることを期待する。

## 2. 学生生活について

#### 【関内委員】

参加学生は様々な要望・意見を持ちながらも、「学生生活が充実しているか」との問いに対して61名中「充実」32名、「どちらかといえば充実」25名で、何らかの課題を抱えながらも大学生活に積極的に取り組む東北学院大生のしなやかな自立性を確認できた。

「高校生に東北学院大学への進学を勧めますか」という問いには、肯定的意見が7割を超えていることは、「大学への誇り」を学生が感じている証左といえる。否定的な意見の多くは、交通の便、施設の老朽化、学費の高さを理由に挙げており、前二者は将来解消される問題と思われるが、学費については奨学金制度の拡充等も含めた大学側の更なる対応に期待したい。

#### 【木須委員】

大学では、より高度な教育を受ける授業、そして、大学生活という見えないカリキュラムを通して全人格的な教育がなされるものと考え。その意味で、教室だけでなく、キャンパス生活全般が教育の場であり、学生生活をサポートする部署の存在も教育環境の一部になるのではないだろうか。今回のヒアリングで、たまたま指摘があがったものと思われるが、大学運営にかかわる方々全体が学生の成長にかかわるという視点から、キャリア支援、学務などを担当する大学職員の方々と学生のコミュニケーションも、より円滑であることを期待する。

#### 【合田委員】

全般的に満足度が高いとみてよいのではないか。個別には課題も指摘されており、きめ細かな対応が期待される点もあるが、統合移転・再開発前の状況としては、ほぼ満足すべき状況ではないかと思われる。

#### 【宮原委員】

インタビューでは、学生たちから大学施設や学内サービスの面での課題が出された。特に、事務部の対応について、学生たちの不満が見られた。このことは、東北学院大学に限らず、様々な大学でも指摘されることである。

学生たちが4年間過ごす大学での生活の安心感や満足度を上げていくことも重要なので、今後も学生たちとコミュニケーションを取りながら、改善に向かっていただきたい。

#### 【菅原委員】

東北学院大学を希望して入学した学生と、そうでない学生がいたようであるが、入学した学校に愛着を持ち、せつかくの学習の場を大切にしようとしている学生が殆どであると感じた。

学業以外の場でも、多くを経験し、学んでいる感じも見受けられた。また、社会人になる為の準備も進んでいるようであると思う。

#### 【八浪委員】

「大学にとって改善すべき課題は」との問いに、「授業のレベルを上げるべきだ」との回答が少なからずあった点が、学院大の抱える根本的な課題を象徴しているように思った。すなわち、マンモス校であること、エスカレーター式で上がる学生と受験で入る学生が混在していること、首都圏に対するコンプレックス…。理由はこればかりではないだろうが、学生の勉学に対する意欲に相当程度の開きがあることがよく分かった。

また、教員の教え方にも相当程度課題があることが浮き彫りとなった。小手先の補講などでは解決つかない、と学生自身が感じていることも分かった。

#### 【高橋委員】

今回実施した学生インタビューの事後アンケート結果を見ると、インタビューに参加した61名中59名がアンケートに回答し、そのうち56名が「参加してよかった」あるいは「どちらかといえば参加してよかった」と回答しており、学生たちの大学生活に対する前向きな姿勢がうかがわれる。

今回の学生インタビューの結果を参考にしながら、進路相談の面など学生の大学生活に対する一層の支援体制の整備が必要と考える。

### 3. インタビュー全般での所見

#### 【関内委員】

6学部の1～4年次学生61名から事前アンケート調査およびmanabaシステムを用いた対面式のインタビューを実施することにより、東北学院大学に所属する学生の大学に対する要望・意見を具体的な生の声で聴くことができた。特に、インタビュー当日には、事前調査を踏まえた絞り込んだ質問を準備し、それをもとに学生に向けた問いを発することで、学生の状況をよりリアルに把握できたと考える。

manabaシステムの採用によって、新たな質問に対する全体像を把握するとともに、各学生の自由記述内容の概要も確認することが可能となった。さらに自由討論の場面では、学生側から様々な方面での大学に対する要望が具体的に発せられ、学生の率直な意見・要望が大学に伝わる機会となったという意味でも有意義なインタビューであった。

#### 【木須委員】

ツールを間に挟んで静寂の中に大量の対話が戻ってくるという、私にとっては初めての体験だったが、最後にはやはりコミュニケーションはフェイスツーフェイスだということを実感した。しかし、これも、私の世代だから実感したことであり、学生の方々は、ツールも対面もコミュニケーションの手段として、上手に使いこなせているのかもしれない。日ごろ、この世代の若者と出会うことがあまりないので、直接対話できたことは、把握したつもりの学生像を、よりリアルにつかむための貴重な機会だった。

#### 【合田委員】

属性の異なるサンプルが混在しているので、インタビューの結果を東北学院大学の学生の全体的な傾向、あるいは個別の部局の特徴としてとらえてよいかは慎重に考える必要がある。

#### 【宮原委員】

インタビューでは、初めて東北学院の学生と直に会うことができ、学生の雰囲気を感じることができた。約 60 名の学生さんたちの学部や男女比、学年もまんべんなく配慮されており、それぞれの立場からの話を伺うことができて良かったと思う。

respon を使用してのインタビューには驚かされた。言葉を発しない学生たちが目の前に居て、質問のたびに彼らのスマホの上の指が踊り、室内の画面から学生たちの意見が次々と溢れ出てくる様子は、近未来的なコミュニケーションの方法と感じた。

それでも、ひとつひとつの質問に、学生たちが一生懸命に回答してくれたのが印象的であった。インタビューの後半では、学生たちと直に質疑や意見交換ができたのも良かったと思う。学生側から問題提起などもあり、学生たちも自分たちの声を受け止めてくれる場の必要性を感じていたように思われた。

#### 【菅原委員】

今回初めての試みだったが、参加した学生が真剣に答え、また、参考になるメッセージをたくさん頂き、学生にとってこのような機会はとても有意義であったと感じた。また、学校側の姿勢についても高く評価されたと思う。

学生が抱えている問題や、学校側に対する要望も深く聞くことが出来きたと思われる。是非、可能な限り対応していただきたい。

#### 【八浪委員】

respon は、思いのほか、記述式回答にも強く、自由記述式の意見が短時間に数多く集まったことに驚かされた。

一方で、今の学生層がスマホ利用に長じている半面、キーボード入力のような操作は苦手であるという指摘が思い出され、就職後の企業における PC 研修などが必要になるのではないかと余計な心配まで頭をよぎった。

#### 【高橋委員】

私自身は、学生の皆さんと直接話すことはできなかったが、事前アンケート等からも、学生の皆さんからの率直な意見や提案、考え方などを知ることができた。このような形の調査は、外部評価の一環としてだけでなく、大学の改革や改善のための情報収集という観点からも大変有効と感じた次第である。

事前アンケートの調査項目やインタビューの時間配分、事前の学生への情報提供など、

本調査自体の改善も必要かと思うが、このようなインタビュー調査については、今後も継続すべきものとする。

#### 4. その他所見

##### 【関内委員】

学生との接点が多い教務課（学務係）での対応について、学生からの様々な要望意見が出されており、学生対応をめぐる課題について大学全体で改めて点検することが望まれる。

##### 【木須委員】

時間を割いて参加された在学生の方々、外部評価委員会の新たな試みを受け入れ、ご準備いただいた事務局の皆様には感謝を申し上げます。

こうしたミーティングには、大学側では、いわゆる優等生を招集されるのかと思っていたが、発言や質疑応答から見る限り偏りのない集合グループとなっていたと思う。

##### 【合田委員】

課外活動の満足度も高いが、課外活動への参加を促進する方策を検討するのも一案だと思われる。

##### 【菅原委員】

是非、外部評価で得たものは、その場だけにならない様にして頂きたい。

学生は真剣であり、もちろん教職員の皆様も真剣であると思われるが、まだまだ改善しなければいけないことがたくさんあると感じた。

### Ⅲ. 2018(平成 30)年度東北学院大学外部評価委員会からの総評

#### 平成 30 年度外部評価の総評

外部評価委員会委員長 関内 隆

##### 〔レスポンスを使用した在学生からの意見聴取〕

平成 30 年度には、大学の教育や学生支援の現状に対して在学生在が如何なる認識を持ち、どのような意見要望を持っているかを把握するための活動を行った。具体的には、6 学部の 1～4 年次学生 61 名を対象に事前アンケート調査を行い、11 月 29 日（木）にはこれら学生が一堂に会し、「respon」（manaba システム）を用いた対面式のインタビューを実施した。

こうした方法を採用することによって、在学生の大学に対する要望・意見を具体的な生の声として聴取することができた。特に、インタビュー当日には、事前アンケート調査を踏まえ、さらに絞り込んだ質問を準備して学生に向けた問いを発することで、学生の状況をよりリアルに把握できたと考える。

出席した委員からは、レスポンスを使用したインタビューでは、言葉を発しない学生たちが目の前に居て、質問のたびに彼らのスマホの上の指が踊り、室内の画面から学生たちの意見が次々と溢れ出てくる様子は、近未来的なコミュニケーションの方法との感想も上がったほどである。今回初めての試みだったが、参加した学生が真剣に答え、参考になるメッセージをたくさん頂き、学生にとってこのような機会はとても有意義であったのではないかと感想も多く委員から出された。

こうして、レスポンスの採用によって、新たな質問に対する全体像を把握するとともに、各学生の自由記述内容を再確認することが可能となった。さらに、自由討論の場において、学生側から様々な方面での大学に対する要望などが具体的に発せられ、学生の率直な意見が直接、大学側に伝わる機会となったという意味でも大変有意義な外部評価活動であったと考えている。

##### 〔東北学院大学の教育活動〕

教育活動のアンケート調査では、授業内容に関して、「興味深い」「どちらかといえば興味深い」がいずれの科目群でも 7 割を超え、特に専門科目では「興味深い」が 5 割を超えており、学生側の授業に対する一定の満足感を確認できる。

しかしながら、事前アンケートでは「授業についていけない」という回答も若干見られたが、当日の「大学への期待」や「学習意欲を上げるには」という質疑の中では、授業のレベルを上げるべきという声が少なからずあった。学生は大学が提供する個々の授業レベル、授業の「質」を問題視しており、授業を実際に担当する各教員、そして大学の教学担当執行部はこうした問題に対して敏感であるべきであろう。他方では、学生インタビューにおいて、学力レベルや学習意欲について学生間に格差がある、と学生自身が感じ取ってその問題を指摘する声も上がっており、補習授業クラスを設置すべきかどうかとい

う話題にも及んだ。大学側はこれらの問題にも今後、取り組む必要があるだろうと考える。いずれにせよ、学習レベルをどこに合わせるかという問題については、大学側の判断によるものであるが、高等教育の場としてふさわしいレベルとクオリティを保持することを貴学には期待している。

大学生活における「学び」においては、高校までとは異なり、自ら主体的に探求していく姿勢が求められ、大学における授業の質的改善によって、学生のさらなる「主体的・対話的で深い学び」につながることを期待される。しかも、大学における教育活動の特徴として、教える側の人間的な魅力や研究者として積み上げてきた知見が「学びの楽しさ」の体験につながっており、ここに学生の知的成長やレベル向上の可能性のヒントがあることにも注目したい。講義以外に学生たちが自主的に学びを広げていく場や機会への誘導も不可欠で、特に、土樋キャンパスにはラーニングコモンズも整備されており、今後はこうした学習の場を学生たちが積極的に活用していくことに期待したい。

### 〔東北学院大学生の大学生活〕

大学では、個別の授業科目に加えて、大学生活を学生が送る中に組み込まれた「潜在的カリキュラム」(Hidden Curriculum)を通して全人格的な教育がなされるものという視座を改めて確認する必要がある。教室だけでなく、キャンパス生活全般が教育の場であり、学生生活をサポートする部署は不可欠な教育環境の一部となっている。大学の教育・学生支援に携わる事務職員の日常的な業務は学生の成長に大きくかかわっており、教務系職員やキャリア支援、課外活動支援などを担当する大学職員の役割を大学全体として再確認することが求められる。

インタビューに参加した学生は様々な要望・意見を持ちながらも、「学生生活が充実しているか」との問いに対して 61 名中「充実」32 名、「どちらかといえば充実」25 名で、何らかの課題を抱えながらも大学生活に積極的に取り組む東北学院大生のしなやかな自立性を確認することができた。

「高校生に東北学院大学への進学を勧めますか」という問いには、肯定的意見が7割を超えており、「東北学院大学生としての誇り」を学生が感じている証左といえる。否定的な意見の多くは、交通の便、施設の老朽化、学費の高さを理由に挙げており、前二者は将来解消される問題と思われるが、学費については奨学金制度の拡充等も含めた大学側の更なる対応に期待したい。

### 〔むすびにかえて〕

貴学が建学の精神に基づいて、学生中心主義をベースに地域と社会に貢献する大学像を掲げ、地域の政治・経済・社会・文化の担い手となる有為の人材を輩出されることを期待している。それに向けた努力の積み重ねによって、教養教育を基盤にした特色ある総合大学としての評価がますます高まることを願っている。

【参考資料】

① 2018(平成30)年度東北学院大学外部評価委員会 名簿

任期：2016(平成28)年4月1日～2019(平成31)年3月31日

No.		職名	氏名	委員会規程	
1	委員長	東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任教授	関内 隆	第5条第2項第1号	大学等の教育機関の教員
2	副委員長	公益財団法人 せんだい男女共同参画財団 理事長	木須 八重子	第5条第2項第3号	本学の所在する地域の関係者
3	委員	尚綱学院大学 学長	合田 隆史	第5条第2項第1号	大学等の教育機関の教員
4	委員	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長	宮原 育子	第5条第2項第1号	大学等の教育機関の教員
5	委員	株式会社清月記 代表取締役社長	菅原 裕典	第5条第2項第2号	経済界の関係者
6	委員	株式会社河北新報社 社長室長	八浪 英明	第5条第2項第2号	経済界の関係者
7	委員	宮城県教育委員会教育長	高橋 仁	第5条第2項第3号	本学の所在する地域の関係者

② 東北学院大学外部評価委員会規程

平成20年4月1日制定第6号

改正

平成22年6月1日

平成28年3月22日改正第69号

平成29年12月26日改正第177号

平成30年3月28日改正第39号

(設置)

**第1条** 東北学院大学（以下「本学」という。）に、東北学院大学点検・評価に関する規程第14条、第15条及び第16条に定める外部評価を実施する機関として、東北学院大学外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

**第2条** 委員会は、東北学院大学点検・評価に関する規程第4条第1号に規定する点検・評価報告書に基づいて第三者の立場から評価し、本学の教育・研究水準の向上及び組織の活性化に資する提言を行う。

(評価項目)

**第3条** 評価項目については、東北学院大学点検・評価に関する規程第3条及び同規程別表に定める点検・評価項目に準じて東北学院大学点検・評価委員会（以下「点検・評価委員会」という。）が検討し、学長に提案する。

2 前項の規定にかかわらず、点検・評価委員会による提案及び委員会による評価は、前項に定める点検・評価項目の趣旨を損わない限りで、評価項目を簡略化して実施することができる。

(評価の時期)

**第4条** 委員会が評価・答申を実施する年度は、公益財団法人大学基準協会による評価を含む外部評価の実施の間隔が2年を超えないように、適切に決定されるものとする。

2 点検・評価委員会は、委員会が評価・答申を実施する年度を検討し、学長に提案する。

3 委員会は、評価・答申を実施しない年度にあっても本学が行っている事業に関する簡略な報告を受けるものとする。

(組織の構成)

**第5条** 委員会の委員は、次の各号に掲げる者のうちから大学の運営に関する見識を考慮して学長が選考し、委嘱する。

(1) 大学等の教育機関の教員

(2) 経済界の関係者

(3) 本学の所在する地域の関係者

(4) 本学に在職した経験を有する者

(5) 本学の学部を卒業した者又は大学院を修了した者

(6) 前各号に定める者以外に、大学に関して広くかつ高い見識を有する者

2 委員の任期は3年とし、再任を妨げない。



3 学長は、委員を委嘱した場合、委員の氏名、所属等を、速やかに点検・評価委員会に通知するとともに公表する。

4 委員会には、点検・評価委員会委員長のほか、本学の点検・評価に責任を持つ専任教職員が必要に応じて陪席する。

(委員長及び副委員長)

**第6条** 委員会に委員長及び副委員長1名を置き、委員の互選で定める。

2 委員長は、委員会の業務を統括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員会の運営)

**第7条** 委員長は、学長の要請に応じて委員会を招集し、議長となる。

2 学長は、委員会において検討されるべき事項、評価を行う年度等について、点検・評価委員会の提案を参酌して委員会に提示するものとする。

3 委員会は、第2条及び第3条に基づいて行われた評価の結果及び改善を求める提言事項を外部評価報告書にまとめ、学長に提出する。

4 学長は、前項に定める外部評価報告書を点検・評価委員会に提出し、その内容を報告する。

(守秘義務)

**第8条** 委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項のうち、秘すべきとされた事項は、他に漏らしてはならない。

(事務)

**第9条** 委員会の事務は、学長室学長室事務課及びインスティテューショナル・リサーチ(IR)課において処理する。

(改廃)

**第10条** この規程の改廃は、点検・評価委員会が発議し、教授会及び大学院委員会の議を経て学長が行い、理事会の承認を得るものとする。

#### 附 則

この規程は、平成20(2008)年4月1日から施行する。

#### 附 則 (平成22年6月1日)

この規程は、平成22(2010)年6月1日から施行する。

#### 附 則 (平成28年3月22日改正第69号)

この規程は、平成28(2016)年4月1日から施行する。

#### 附 則 (平成29年12月26日改正第177号)

この規程は、平成29(2017)年12月26日から施行する。

#### 附 則 (平成30年3月28日改正第39号)

この規程は、平成30(2018)年4月1日から施行する。

### ③ 第3期東北学院大学学部評価 概要

平成 28 年 7 月 21 日外部評価委員会

#### 1. 東北学院大学の外部評価について

本学は、学校教育法に基づく自己点検・評価及び認証評価に加えて、第三者による教育・研究活動の評価を受けることにより、教育・研究水準の向上と組織の活性化を図ることを目的として、平成 20 年 4 月に「東北学院大学外部評価委員会規程」を制定しました。

これまで、第 1 期（平成 22～24 年度）及び第 2 期（平成 25～27 年度）の外部評価委員会を設置し、毎年外部評価を実施してきました。

このたび、第 2 期外部評価委員会の任期満了に伴い、平成 28 年 4 月に第 3 期外部評価委員会が発足しました。

#### 2. 第 3 期外部評価について

##### (1) 第 2 期外部評価委員会からの引き継ぎ事項

平成 24 年度の外部評価委員会では、第 2 期の外部評価について大学と協議を行い、以下の事項を確認し、平成 25 年 4 月 18 日（木）に開催した点検・評価委員会で、これらを念頭に置いた外部評価の実施を承認しました。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①自己点検・評価や認証評価との差別化を図る。<br/>…評価対象・時期等の重複の回避、大学内部の PDCA サイクルの循環の促進</li><li>②評価に係る双方の負担を軽減する。<br/>…評価資料そのものや教職員の負担の削減</li><li>③新たな評価手法として、在学生や卒業生などへのインタビューなどを検討する。<br/>…大学自己点検・評価の項目にはないステークホルダーからの生の意見聴取</li></ul> |
|---|

また、平成 27 年度の外部評価委員会では、第 3 期の外部評価について、第 2 期で実施したインタビュー調査の継続を求める意見があった一方で、これまで実施した外部評価で指摘された事項についての改善状況を明確に示して欲しいという意見が出されました。

##### (2) 第 3 期外部評価の概要（点検・評価委員会提案）

- ①評価年度：平成 28～30 年度
- ②調査対象：点検・評価報告書及び過年度に外部評価で指摘された事項への対応状況
- ③評価方法：報告書及び対応状況をまとめた資料を基に大学に対する指摘、助言等を行う。また、必要に応じて学内関係者等にヒアリングを行うことがある。
- ④評価項目：大学の改善に向けた実施状況及び体制等

以上

④ 2018(平成 30)年度東北学院大学外部評価委員会 議事録 (第 1 回、第 2 回)

2018(平成 30)年度 第 1 回 東北学院大学外部評価委員会 議事録

- 日 時：2018(平成 30)年 6 月 21 日 (木) 11 時 04 分～12 時 03 分
- 場 所：東北学院大学土樋キャンパス 5 号館第 1 会議室
- 委員出席者：関内隆 (委員長)、木須八重子 (副委員長)、合田隆史、宮原育子、菅原裕典、八浪英明、高橋仁 (以上、委員)
- 陪 席 者：松本宣郎 (学長)、菊地雄介 (総務担当副学長)、千葉昭彦 (学務担当副学長)、原田善教 (点検・評価担当副学長)、村野井仁 (文学部長)、前田修也 (経済学部長)、齋藤善之 (経営学部長)、陶久利彦 (法学部長)、中沢正利 (工学部長)、阿部重樹 (学長室長)、菊地祐一 (総務部長)
- 事 務 局：齋藤吉重、石川学、水野麻美、相澤孝明、山川陽介、櫻井卓、齋藤涉 (以上、学長室事務課/IR 課)
- 配付資料：
- 資料 1：外部評価委員会 委員名簿
- 資料 2：前回議事録 (平成 29 年度第 3 回外部評価委員会)
- 資料 3：2018(平成 30)年度外部評価委員会外部評価実施要領 (案)
- 参考 1：第 3 期東北学院大学外部評価 概要
- 参考 2：東北学院大学外部評価委員会規程
- 参考 3：学生への質問項目 (例)
- 参考 4：Respon について
- 参考資料：『東北学院大学 GUIDE BOOK 2019』
- ：『卒業時意識調査(2013-2017)』
- ：『2017(平成 29)年度学修行動と学生生活に関する実態調査(報告書)』
- ：『2017 年度「授業改善のための学生アンケート」結果報告書』
- ：『第 15 回学生生活実態調査報告書』
- ：『2019 保護者の方へ東北学院大学大学ガイド』
- ：『FD news No. 27』

1. 開 会【進行：司会者】

- (1) 黙祷
  - (2) 配付資料の確認
  - (3) 東北学院大学 学長挨拶
  - (4) 出席者の紹介 (委員)・・・資料 1
  - (5) 前回議事録の確認・・・資料 2
- ・既に委員の承認を得ていることが報告された。

2. 議 事【議長：委員長】

- (1) 2018(平成 30)年度の外部評価について

- ・ 関内委員長：本日の委員会では、今年度の外部評価をどのように行うかを決定したい。[資料3](#)を基に評価の方法についてご審議いただきたい。振り返りになるが、平成 28 年度はこれまでの外部評価における指摘事項の対応状況を確認することを目的として、学長、副学長、総務部長へヒアリングを行い、外部評価委員会として提言を行った。平成 29 年度は大学基準協会の認証評価を受けるために点検・評価報告書が作成された。報告書のうち、第 10 章、内部質保証に関する事項に着目し、内部質保証が大学全体、学部研究科レベル、個々の教員レベルで行われているか、大学における IR ではどのようになっているかを学部長、研究科長を対象にヒアリングを行い、外部評価委員会としての提言をまとめた。昨年度の第 3 回委員会では、次年度の外部評価に関する議論を行い、外部評価委員による学部学生に対するインタビュー調査を行いたいという意見が多かった。本日は、インタビュー調査の方向性について確認をしながら進めていきたい。その前提として、外部評価を受けるにあたっての大学側の状況について説明願う。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：大学としては、今年度の外部評価をどのように進めていただくかについて、点検・評価委員会を開催したうえで決定している。当該委員会においても、関内委員長からご説明があったとおり、学部学生を対象としたインタビューを行い、外部評価をしていただくほうが良いという結論になっている。
- ・ 関内委員長：[資料3](#)の 1. 目的にも外部評価の方法として、学生へのインタビュー調査を提案しているが、委員の皆様から意見等あるか。  
 <特になし>
- ・ 関内委員長：それでは、学生へのインタビュー調査の実施及びインタビュー調査から得た結果から外部評価委員会として提言を行っていくということで決定したい。ここからは、インタビュー調査を具体的にどのように行っていくか議論したい。昨年度の第 3 回委員会では、学生と教員が双方向に意見を交わすことができる Respon を活用してはどうか、という意見が出た。これについて大学側から意見及び説明願う。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：大学の授業の中に Learning Management System として manaba コースを導入している。学生へのインタビューで活用することにより、スムーズな実施や論点の掘り下げ等、いろいろなメリットがあると考えている。まずは Respon について事務局から説明する。
- ・ 事務局：Respon に関する説明資料として[参考3](#)及び[参考4](#)を添付している。[参考3](#)には実際に学生に対してインタビューを行う際に問うことが想定される項目を記載している。[参考4](#)については、画面を確認しながら説明する。Respon とは、授業中にリアルタイムで回答を送信することができ、回答者同士がその内容を共有することができる無料アプリである。そのため、学生がインタビュー調査に回答するためにはスマートフォン等にアプリをダウンロードする必要がある。アンケートの回答方法としては、まず、教員や講師が設定した 9 桁の発行番号をアプリ内で入力する。教員、講師は発行番号をプロジェクターに映したり、板書や口頭で学生に伝達する。発行番号を入力すると、質問内容を表示した画面に切

り替わる。教養学部地域構想学科教授の金菱清氏にご協力いただき、社会学の授業で実際に使用した質問項目と回答をスクリーンに映している。Respon の利点は少数派の回答も汲み取ることができる点である。多数派の回答は一般的な意見であり、少数派の回答は変わった意見という考えに陥りがちだが、少数派の回答理由に焦点を当てると、学生が根拠を持って回答していることが確認できる。また、匿名性があるため、挙手がでなかつたり、自身の意見を積極的に発信することが苦手な学生も含め、全員の回答を共有することが可能である。[参考3]では学生へのインタビューを実施する際に想定される質問と、それに対し、学長室事務課職員が回答した画面を掲載している。回答の集計を円グラフ又は棒グラフで表示することが可能で、学生の意見を抽出することも可能である。また、回答理由についても問うことができる。

＜実際に Respon を起動した画面をスクリーンに映し、操作方法を説明する。＞

- ・ 関内委員長：事前に質問を用意しておくことがポイントになる。かつ、質問に対する回答の選択肢を5つ程度用意しておく必要もある。自由記述の場合は2～3分程度回答時間を与え、回答を作成してもらうという流れで進めるのか。
- ・ 事務局：時間を与えてその場で回答してもらうこともできるが、事前に質問内容を伝達しておき、回答を集計することも可能である。
- ・ 関内委員長：自由記述の回答の表示方法であるが、回答内容が一斉に表示されるのか。
- ・ 事務局：一斉に表示される。
- ・ 関内委員長：委員から操作方法等について質問はあるか。
- ・ 前田経済学部長：今後、アンケートを実施する機会は増えると思うが、アンケートの集計結果をどのように活用するか、学生に対し事前に説明する必要はないのか。
- ・ 事務局：学生に対し、個人を特定しない形式で外部評価報告書にて公表されることの承諾書及びその旨説明する文書は事前に送付する予定。
- ・ 前田経済学部長：合意を取り交わすということによろしいか。
- ・ 事務局：個人が特定できないように統計処理を行い、公表する合意を得る。
- ・ 八浪委員：規模感について質問したい。対象は61名ということによろしいか。また、学生へのインタビュー調査と聞いていたので、対面形式で回答を深掘りしていくようなものをイメージしていた。統計的な処理をするということは極力多くの学生に質問をして、統計的にデータを出し、傾向を知り、短時間で結果を得ることが狙いになると推察するが、実施の目的についてももう少し詳しく説明願う。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：3～4年前にインタビューを実施した際は、5名程度の学生と対面形式でのインタビューを実施し、回答を掘り下げて結論を得る手法を採用した。しかし、Respon という新しいツールがあるので活用したいと思っている。全学部全学年から計60名程度学生を集め、こういった傾向があるのか集計しながら、同時に個人の自由記述を把握することが狙いである。外部評価委員は、集計結果を踏まえた質問をする場合もあると考える。また、60～100名を収容できる教室でこのツールを活用し、出てきた回答を確認しながらリアルタイムで質疑応答をするという仕組みも考えている。この場合、5名程度に対しイン

インタビューをする手法と比較すると、掘り下げた回答を得ることは難しいかもしれないが、全体の傾向を把握することはできると思う。これについては委員長とも合意している。

- ・ 関内委員長：昨年度の第3回委員会で、Respon を用いた講義形式があるため外部評価に導入できないかという議論がなされたため、本委員会での提案に向けて準備した。しかし、10名程度の学生を選出して、掘り下げた回答を得るためのインタビューを実施したほうが良いという意見が多いようであれば、実施方法を Respon から変更しても良いと考えている。実施方法については委員の意見を尊重したい。
- ・ 宮原委員：まず、大学の授業方法が発展していることに感心した。発展したツールを用いてどのように外部評価をするのか議論するうえで、統計的な処理結果を確認できることは理解できた。加えて、特定の学生へのインタビューも有効であるとも考える。外部評価の方法について議論を深めるために、実際に授業で Respon を活用した教員から活用したことで得られた効果や活用する際に必要となる配慮等について説明いただきたい。
- ・ 前田経済学部長：manaba は使用しているが Respon の導入はしばらく時間を要する。ただし、経済学部の若手の教員はすでに Respon を活用しており、便利という意見は出ている。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：私は導入していないが、経済学部の若手教員は、Respon を活用して学生の理解度をリアルタイムに把握しながら授業を進めており、便利に感じているようだ。八浪委員の意見にもあったように、大衆を相手にした調査では具体的に双方の深い考えを理解し合うことは難しいと思うが、より広く多くの学生の傾向を把握しながら、それを踏まえてフェイスツーフェイスで意見を交換することは可能であるため、多くの意見の収集と深い意見の収集の両方に活用できるツールだと思う。
- ・ 関内委員長：Respon を用いた調査をする場合はどの程度時間が必要であると想定しているか。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：どの程度時間をかけるかは委員の方々に決定してもらいたい。事前に用意した質問に対し、回答を集計するというのであれば1時間程度で可能だと思う。集計した意見を踏まえて個別の調査を実施するというのであれば、個別インタビューに要する時間が追加でかかってくる。
- ・ 関内委員長：Respon と個別インタビューの併用も考えられるが八浪委員から意見はあるか。
- ・ 八浪委員：かける時間と調査を実施する空間次第だと思う。傾向を知るためだけに調査をするということであれば機械的な調査方法が良いと思うが、50～60名程度の学生に対し調査をするのであれば、出た意見に対してリアルタイムで集計を行い、それを踏まえて追加の質問をしていく方法によって双方向に意見を交わすという利点を生かすことができると思う。
- ・ 関内委員長：集計した結果を調査対象者全員に提示して、挙手制で更に詳しい説明を求めるということか。

- ・八浪委員：その方法にするならば、初めから個別に調査をするほうが得られる効果は大きいと思う。50～60人で空間を共有する状況ならば、あらかじめデータを集計しておき、少数意見に関して意見交換させるほうが良いと思う。
- ・関内委員長：掘り下げた質問をすることを前提として、調査対象者から何名かの学生を事前に選出しておき、調査を実施するというのも可能かと思う。
- ・八浪委員：その方法に加えて、詳しくインタビュー調査を実施する方法も良いと思う。最終的なゴールをどのようにイメージしているかによって方法も変わってくる。
- ・原田点検・評価担当副学長：事務局としては、学生に対し、事前に質問項目を伝達しておき、回答に加えて自身の意見も出させ、その内容を踏まえながらその場で追加の質問をしていき、気になる意見があった場合には該当学生に意見を発表してもらおうという方法であればより深く短時間で結果を得られると考えている。
- ・合田委員：調査対象が60名程度とのことだが、対象者の学部学年は平均的に選出するのか。平均的に選出するとなると、各学部、学年とも数名程度の選出になるのか。全体的な傾向となると、経験上、学部や学年によってばらつきが出ることが予想されるが、調査対象者数が60名程度の調査で出た結果を全体の傾向と考えてよいのか。
- ・関内委員長：Responでは各学部、学年毎の集計結果を表示することは可能か。
- ・原田点検・評価担当副学長：可能である。調査対象を男女別にするといったことは委員の皆様で決定してほしいが、全ての学科から男女一人ずつ選出すると合計で120名程度になる。それでは多すぎるため、例えば1年生から選出する学生を男子とするならば、2年生からは女子を選出するなどして全体数を縮小したいとは思っている。しかし、委員の皆様からご意見があれば変更も可能である。
- ・関内委員長：全体の傾向を導き出すとしても、各学部の特徴程度は把握できるのか。
- ・原田点検・評価担当副学長：各学科4人程度を選出する。複数学科ある学部であれば十数名程度の選出になるが、1学科しかない学部もあるため、学部の特徴まで把握することは難しいと考える。
- ・関内委員長：それでは、学年毎の違いは把握できるか。
- ・高橋委員：インタビューの狙いを決定することで、対象者を把握できるのではないか。また、学生はすでにResponをインストールしているのか。
- ・事務局：調査対象となる学生は、スマートフォンを保有していることと、Responをダウンロードできることを条件に選出する予定である。
- ・高橋委員：各学部学科の特徴を導き出すことは難しいと思うが、選出した60名の傾向を把握するためであれば有効だと思う。しかし、60名の調査結果をもって大学全体の傾向とすることはできないと考える。外部評価をするうえで、学生の生の声を参考にはしたい。匿名性が担保されていることがResponの最大のメリットだと思うが、個別インタビューとなると匿名性は失われる。選出した学生にはその旨、事前に了承を得ることは大切だと思う。
- ・宮原委員：Responを使って学生たちの意識を外部評価委員が把握していくことになろうと思う。これまでの外部評価では、各学部学科から様々なデータを集約

して議論してきたが、Respon を用いた調査を行うということであれば、学部学科といった垣根は一旦考慮せず、全体について議論することになると思う。学生の意識調査等について全学的に取り組まれているようだが、全学で取り組んだ意識調査を改めて外部評価のための調査対象学生に実施し、統計上の傾向とは異なる結果を得たい。学生に対しインタビューするといったことは大学側では実施しづらいことだと思うので、外部評価委員が代わって行うことで大学のお手伝いをしたい。もし Respon を調査で使用するのであれば、外部評価委員が用意した質問項目とは別のものを大学で用意してもらい、その回答を踏まえて外部評価委員がインタビューするという２段階の方法も有効であると考えます。

- ・菅原委員：Respon を使用することには賛成。資料で質問の例が配付されているが、資料に記載の項目以外にも質問を追加することももちろん可能であるのだから、様々な角度から学生に質問を投げかけることができる。調査対象者数を 61 名とすることが最適か否かを議論するよりも質問の内容を充実させることの方が重要である。同一内容の質問を一斉に投げかけることができるツールがあるのだから、是非使用したい。
- ・関内委員長：Respon 使用に関して若干意見が分かれているが他に意見はあるか。
- ・齋藤経営学部長：Respon の使用実績だが、経営学部では、本格的に Respon を稼働させており、私が担当している「おもてなしの経営学」では講師の女将さんが講義の最後に質問を受け付けるのに Respon を使用している。従来、質問を受け付けても学生から手が挙がらなかったが、Respon を導入してからは質問がたくさん出るようになった。質問が増えることで学生たちの理解も深まる。また、Respon であればダウンロードしたデータを持ち帰ることができるため、講義終了後も質問とそれに対する回答を確認することができる。また、事前に質問を用意しておき、その場で教員と学生がやり取りすることも可能。調査対象者数の 60 名という根拠は分からないが、Respon であれば 300 名分程度の回答集計も可能である。母数を増やすことも検討して良いと思う。従来のヒアリング形式の調査では少数意見の収集のみになるため、全体の傾向を把握することはできない。調査形式を併用して、Respon で広く浅く調査を行い、インタビューでより深い意見を得ることが有効だと思う。Respon であれば 20 分程度で大量のデータを収集できる。
- ・関内委員長：調査対象者数を増やしても良いのではという意見が出たが事務局として意見はあるか。
- ・原田点検・評価担当副学長：学生をどの教室に集めるか等、検討事項は増えるが、調査対象者数を増やすことは不可能ではない。委員会として対象者数を広げてほしいということであれば調査の範囲を広げたい。
- ・阿部室長：60 名の学生に対し調査を実施することに、全体の傾向を把握するという意図があるのであれば 60 名への実施にも賛成という意見があったかと思う。参考だが、1 万人の傾向を把握するのに 370 人程度のサンプル数が必要という見解がある。60 名に対する調査のなかで傾向を把握したいという意見もあるため参考と前置きして発言した。



- ・合田委員：60名に対して Respon を使用して調査することに反対しているわけではない。数字からどんな結果を得るか、誤った見方をしないよう注意が必要ということ発言したかった。
- ・関内委員長：Respon を使用することを前提として、質問内容を充実させること、対象者数を増やすことは検討しなければいけない。60名という数字にはどのような根拠があるのか。
- ・原田点検・評価担当副学長：教育学科が新設され全 16 学科体制になった。各学科各学年 1 名ずつの選出となると、15 学科×4 学年+1 年生だけが在籍する教育学科から 1 名の選出で計 61 名という計算により提案した。
- ・関内委員長：調査対象者数を増やすことは、学生を集めることが大変ということ以外問題ないか。
- ・原田点検・評価担当副学長：その認識で問題ない。
- ・関内委員長：人数を限定し、掘り下げた意見を収集したいという意見も出たが、今回は匿名性を保持して学生の傾向や思いを把握したいということで Respon を使用したい。対象者数は今後検討し、増やしたい。質問内容は今後の議題として、委員から案を出してもらいたい。
- ・八浪委員：基本的には賛成だが、対象者数は、学部学科の特徴を本調査で把握するか否かを調整したい。学部学科の特徴については考慮しないということであれば、60名は手頃な人数であるし、むやみに増やす必要もないと考える。学部、学科、男女比等でデータを分析することを目的にするか再度検討したい。
- ・高橋委員：対象者数を増やさないということに賛成である。「おもてなしの経営学」の話にもあったが、人数を増やすことで、大勢の前で発言しづらくなるという弊害も生じる。前に出て発言してもらおう可能性もあるということをも前提にするならば 60 名程度の学生に参加してもらおうことが望ましい。
- ・関内委員長：それでは、対象者数については事務局の提案を採用することとしたい。当日参加する学生には発言を求める可能性があることを事前に伝達しておくこととしたい。
- ・菅原委員：インタビューの日程案について、大学祭の準備日と 10 月から 11 月の木曜日という 2 つの案が出ているが、2 つ目の案はすでにインタビューを実施することが確定している学生に対するものだと、大学祭の準備日に急遽学生を呼び止めてインタビューを実施することは実現可能なのか。
- ・原田点検・評価担当副学長：難しいと考える。
- ・関内委員長：インタビューの実施日程について提案はあるか。あるいは事務局から説明はあるか。
- ・原田点検・評価担当副学長：授業実施時間中では学生に授業を休ませることになりかねないので難しいと考える。そのため授業がない期間に実施することが望ましい。土樋キャンパスでは 10 月 13 日から大学祭が始まるため、前日は準備のために休講とする。そのため学生を集めやすい。午後には大学祭に向けた教室の装飾が始まってしまいが、午前中であれば作業も始まらず、休講のため学生も協力してくれやすい。授業実施期間中でも、木曜日の 14 時 30 分以降は課外活動のため

の時間となっており、授業がないため、泉キャンパスや多賀城キャンパスからでも学生を集めやすい。

- ・ 関内委員長：実施時期は本日中に確定させたほうが良いのか。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：決められるのであれば決めていただきたいが、まだ先のことでもあるため、学生の都合と委員の皆様の都合を踏まえて後日調整していただいても構わない。
- ・ 高橋委員：議会があるため10月12日は参加できない。
- ・ 関内委員長：それでは、10月から11月中の木曜日で後日調整していただくことにしたい。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：承知した。

#### (2) 今後の日程について

- ・ 関内委員長：インタビュー日程案については後日調整、学生インタビュー調査の概要については承認いただいたということで進めたい。インタビュー調査に向けて準備をしていくことになるわけだが、まずスケジュールの確認をしたい。6月21日が第1回目の外部評価委員会、6月末日までに「学生インタビュー質問記入シート」を事務局より送付してもらい、各委員からその回答を送ってほしい。8月～10月にかけて、各委員から収集した質問記入シートを整理していきたい。シートをもとに第2回外部評価委員会としてインタビュー調査を実施し、調査実施後に調査結果と提言を各委員から提出していただく。平成31年2月又は3月に第3回外部評価委員会を開催するという予定を組んでいる。各委員からスケジュールに関し意見はあるか。

<特になし>

- ・ 関内委員長：それでは、承認いただいたということで進めていきたい。
- ・ 原田点検・評価担当副学長：質問項目を委員の方に考えていただくことになるが、事務局が例で示したような項目に限らず、質問記入シートにはできる限り多くの質問を記入していただきたい。質問の分野別仕分けや重複している質問等、内容の調整は事務局が行い、再度委員の方に確認していただきたいと思っている。

#### (3) その他

- ・ 原田点検・評価担当副学長：事務局からは特になし。
- ・ 関内委員長：議事はここまでとする。

<陪席者紹介>

### 3. 閉 会

以上

## 2018(平成30)年度 第2回 東北学院大学外部評価委員会 議事録

- 日 時：2018(平成30)年11月29日(木) 15時06分～16時40分
- 場 所：東北学院大学土樋キャンパス5号館第1会議室
- 委員出席者：関内隆(委員長)、木須八重子(副委員長)、合田隆史、宮原育子、菅原裕典、八浪英明(以上、委員)
- 陪席者：松本宣郎(学長)、千葉昭彦(学務担当副学長)、原田善教(点検・評価担当副学長)、村野井仁(文学部長)、前田修也(経済学部長)、齋藤善之(経営学部長)、陶久利彦(法学部長)、中沢正利(工学部長)、水谷修(教養学部長)、阿部重樹(学長室長)、菊地祐一(総務部長)
- 事務局：齋藤吉重、水野麻美、櫻井卓、齋藤渉(以上、学長室事務課/IR課)
- 配付資料：
  - 資料1：外部評価委員会 委員名簿
  - 資料2：2018年度外部評価委員会(学生アンケート集計結果)
  - 資料3：当日質問一覧
  - 資料4：学生インタビュー参加者名簿
  - 資料5：前回議事録(平成30年度第1回外部評価委員会)
  - 参考資料：学生インタビュー説明資料
    - ：第2期外部評価を終えての所感
    - ：2018(平成30)年度外部評価報告書作成要領

### 1. 開 会

- (1) 黙祷 【点検・評価担当副学長】
- (2) 東北学院大学 学長挨拶 【点検・評価担当副学長】
- (3) 出席者(委員)の紹介…資料1 【事務局】

### 2. 議 事【議長：委員長】

#### (1) 在学生インタビュー

- ・関内委員長：本日のインタビューは、「基本情報・学習活動」、「大学生生活」、「課外活動」の3つの項目に分けて進めていく。意見を伺う前に、在学生の皆さんから回答いただいた事前アンケート集計結果についてIR課から説明する。
- ・事務局：「基本情報・学習活動」について説明
- ・合田委員：尚絅学院大学もキリスト教主義の大学であるが、キリスト教教育に対する満足度が低い。そこで、同じキリスト教大学で学ぶ皆さんへ2つ質問したい。1つ目は、大学の礼拝に出席する目的を教えてください。積極的な意味を見出しているのか、消極的な理由での出席か、あるいは特に理由が無く出席しているかを聞きたい。
- ・合田委員：同じ問いを尚絅学院大学の学生に尋ねた場合、「消極的な理由で参加している」が多くなると思われるので、大学礼拝の方法を工夫したほうがいいと感じた。もう1つの質問は、キリスト教教育関連のプログラムで充実してほしいものを「1.

礼拝」、「2. 授業」、「3. 音楽会、講演会等イベント」、「4. その他」から選んでほしい。

- ・合田委員：（学生回答を受けて）「授業」を選んだ方が多く、前向きな意見が多くて感銘を受けた。
- ・木須委員：事前質問「基本情報」の14番「単位取得と無関係に、学ぶことが楽しいと感じた授業はありますか。」について、ほとんどの方が学ぶことが楽しいという回答をしていることに嬉しい驚きを感じた。学びそこねた人たちが社会で学び方がわからない、学ぶことが楽しいと思えない人たちに学び直しをする支援をしているので、そのような人たちに学ぶことの楽しさを伝えていきたいと思っている。「どんなところで学ぶことが楽しいと気づいたのか」を自由回答で聞いてみたい。
- ・木須委員：（学生回答を受けて）皆さんが学ぶことが楽しいと感じていることが伝わってきた。そのような学び方ができたというのは、大学教育によるものかもしれないが、それ以前に高等学校等どこで学ぶ楽しさの経験を積んできたのかについて興味を持った。学ぶ楽しさを知らない皆さんと同じ世代の方々へ是非学ぶ楽しさを伝えていけたらいいと感じている。
- ・関内委員長：外部評価委員より他に追加質問があれば発言していただきたい。
- ・菅原委員：「卒業後の進路選択にとって、現在のカリキュラムが役立っていると思いますか。」の回答で「思わない」が0%であったことは素晴らしいと思う。就職をするとして仮定して、カリキュラムは役に立っているが就職希望先に向いているかどうか、向いていないと考えるならばどのような点で向いていないのかについて理由を自由記述で回答して欲しい。
- ・菅原委員：（学生回答を受けて）1、2年生はまだ進路について考えられないと思うが、私は一企業人として早めに将来の仕事を決め、先生方からアドバイスをもらえると思う。
- ・宮原委員：東北学院大学に対しての学びの期待を入学前後で比較した場合「1. 期待以上」、「2. 期待通り」、「3. 期待より低い」、「4. 期待はずれ」の4択で伺いたい。また、期待以下だった場合に、どのような方向で大学生活を頑張っているかを知りたい。例えば、他大学科目履修や課外活動等違う経験を通じて大学生としての自分を作る経験をしているかどうかを書いてほしい。
- ・宮原委員：様々な学びや活動を皆さん自身が上手に受け取り、学びを展開していることが分かった。授業のみならず、自ら学び、他者との交流、学外での経験により東北学院大学に在籍する4年間でポジティブになるのではないかと思う。
- ・事務局：「大学生活」について説明。
- ・八浪委員：「東北学院大学において改善すべき課題は何と考えますか。」での学びに対する回答が多く、ここが大学にとって改善すべき課題と考えている学生が多いと思われる。「授業のレベルをあげてもいいかと思う。ついてこれない人にはそれ相応の補講システムを作って、優秀な人や普通の人満足する内容にすべきだと思う。」という意見と類似した回答が多いことが特徴であると思われる。「あなたは高校生に東北学院大学への進学を勧めたいと思いますか。」に対し「どちらかという勧めたくない

い」の回答の中に「同級生の中に進学や就職に対し高いモチベーションを持った人が少ないと感じます。」という意見があった。

それを受けて3つ質問したい。1つ目は「もう少し授業のレベルをあげるべきだ。」、2つ目は、「授業についてこれない人に対して補講をして学力の底上げをすべきである。」についてそう思うか、思わないかを回答して欲しい。3つ目は自由記述で「学習意欲をあげるためにはどうしたらいいと思うか」を問いたい。

- ・参加学生 A：教養教育科目についてなのか、専門科目について問われているのか？
- ・事務局：教養教育科目と専門科目のどちらも設問に入れて対応する。
- ・八浪委員：（学生回答を受けて）教養教育科目、専門科目のどちらにおいても、レベルアップを求める回答と現状維持を求める回答が半々である。また、自由記述について2つの傾向があると見受けられる。1つは、授業自体を面白くしてほしいという意見、もう1つは、学習意欲が持てないという意見である。授業についていけない人たちは問われていること、記載されていることが理解できないことが原因で学習意欲が持てないとするならば、学習に躓いた時期まで遡って学習を積み重ねるの必要性があると思われる。いい取り組みに期待する。
- ・関内委員長：学生間の学力差や意欲差を感じている先生方もいると思われる。今回、何をすべきかについて提案があったので、貴重な情報を得られたのではないだろうか。
- ・木須委員：事前質問の回答で、「入学してから視野を広げ、物事を幅広く考えることが出来るようになったと思いますか。」、「入学してから自分の考えをまとめて表現できる力がついたと思いますか。」については「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が多い。一方、「入学してから語学（英語）力がついたと思いますか。」について、「2. どちらかといえばそう思う」と「3. どちらかといえばそう思わない」という回答が半々であった。そこで、自己評価を基準に今後何を学ぶと語学力がついたと思うかのポイントについて自由記述で回答して欲しい。
- ・参加学生 B：語学力は英語力についてなのか、思考力など言葉を操る能力かどちらであるか？
- ・木須委員：英語力についてである。英語力でどのポイントが上がると語学力がついたと感じるのかを聞きたい。
- ・参加学生 B：英語力であれば、必修科目の英語や英文学科の授業も該当する。または、思考力も含めた英語力のどちらを問うかによって評価基準が変化すると思われる。どちらについて問われているのか？
- ・木須委員：事前質問に回答した際の基準に合わせて回答して欲しい。
- ・木須委員：コミュニケーションツールとして英語を使いたいということが分かった。
- ・関内委員長：「課外活動について」の事務局の説明を割愛する。最後に、大学に実現してほしいこと、改善してほしいことがあれば挙手してほしい。
- ・参加学生 C：特待生は授業料の半額が支給されるが、全額支給を希望する。優等生はQUOカード2万円分の支給で少ないと思う。
- ・関内委員長：大学の制度を説明してほしい。
- ・原田点検・評価担当副学長：本学では成績上位者に対して特待生、優等生制度を設けており、各学科上位複数名を特待生として年間授業料半額相当を奨学金として給付して

いる。その次点の学生（学科の学生数の3%）を優等生としてQUOカード2万円ずつ給付している。

- ・参加学生 D：試験のみで評価される授業がある。授業は出席することが大事だと思うので、出席を取らないというのに疑問を感じる。また、manaba で出席を取る授業もあるが、学生が教室内にいたとしても manaba では出席になる仕組みのため何とかしてほしい。もう1つは、授業遅刻に対し公共交通機関の遅延証明書で対応してくれる教員とそうでない教員がいる。教員による取り扱いを均一にしてほしい。
- ・参加学生 E：課外活動に参加しているが活動場所が学内ではなく遠方にあるため、交通費が月に2万円ほどかかる。大学からの補助が無く、経済的に困窮している状況である。大学で課外活動支援を拡大してほしい。
- ・参加学生 F：教職関係の授業と学科専門科目の開講曜日校時が重複する機会が多いため、重複させない配慮を大学側にお願いしたい。特に、3年次において重複した場合、4年次に教育実習等により出席できないリスクが高いため、3年次開講科目は特に重複を避けていただきたい。
- ・参加学生 G：大学事務の対応について意見がある。休学相談の際の説明と事実が異なっていたため多大な損害を受けたことがある。復学後、事務室へ問い合わせたが事実確認してもらえず、納得がいかない状態が現在まで続いている。その際に丁寧な対応をしていただきたかったと思っている。
- ・関内委員長：窓口対応については大学側に確認し、事実関係を含めた対応を求めたい。質問だが、窓口対応でトラブルがあった場合、大学内に相談する場は無いのだろうか。
- ・参加学生 G：トラブルがあると学務係や教授に相談していた。本件についても学務係に何度か相談した経緯がある。
- ・関内委員長：他に意見がなければ、大学への要望や意見について respon で提出してほしい。
- ・関内委員長：本日の学生インタビューを終了とする。御協力に感謝する。

### 3. 閉 会

以上



**2018（平成 30）年度  
東北学院大学外部評価報告書**

発行日：2019（平成 31）年 3 月 8 日発行

編集・発行：東北学院大学外部評価委員会

問合せ先：東北学院大学外部評価委員会事務局  
（東北学院大学 学長室事務課/IR 課）

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1

TEL 022-264-6424 FAX 022-264-6364

E-Mail [ck@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:ck@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)



# 2018年度外部評価委員会 (学生アンケート集計結果)

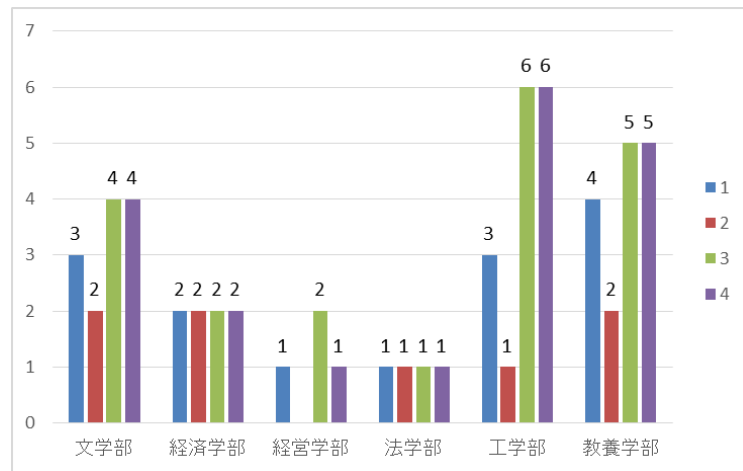
東北学院大学  
外部評価委員会事務局

# 1. 【基本情報・学習活動】

## 「基本情報・学習活動」

	1年	2年	3年	4年	総計
文学部	3	2	4	4	13
経済学部	2	2	2	2	8
経営学部	1		2	1	4
法学部	1	1	1	1	4
工学部	3	1	6	6	16
教養学部	4	2	5	5	16
総計	14	8	20	19	61

	集計
男性	30
女性	31
総計	61



1 あなたの居住形態を1つ選んでください。

1. 自宅（保護者と同居） 2. 一人暮らし 3. 寄宿舍・学生寮 4. 親戚、兄弟等と同居 5. その他

	集計
一人暮らし	14
自宅（保護者と同居）	46
親戚、兄弟等と同居	1
総計	61

2 あなたの通学時間について最もあてはまるものを1つ選んでください。

1. 30分未満 2. 30分以上1時間未満 3. 1時間以上～2時間未満 4. 2時間以上

	集計
1時間以上～2時間未満	17
1時間以上～2時間未満0分以上1時間未満	22
1時間以上～2時間未満0分未満	18
2時間以上	4
総計	61

3 入学試験区分について1つ選んでください。

1. 一般入試 2. 指定校推薦入試 3. AO入試 4. TG推薦 5. センター試験 6. その他

	集計
一般入試	26
指定校推薦入試	7
AO入試	13
TG推薦	5
センター試験	10
総計	61

5 奨学金制度を利用していますか。

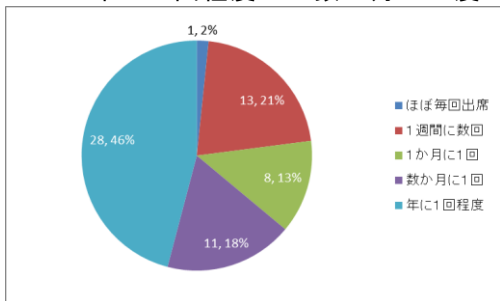
1. はい 2. いいえ

	女性	男性	総計
はい	11	14	25
いいえ	20	16	36
総計	31	30	61

	1年	2年	3年	4年	総計
はい	9	5	4	7	25
いいえ	5	3	16	12	36
総計	14	8	20	19	61

6 大学の礼拝にどのくらいの頻度で出席していますか。

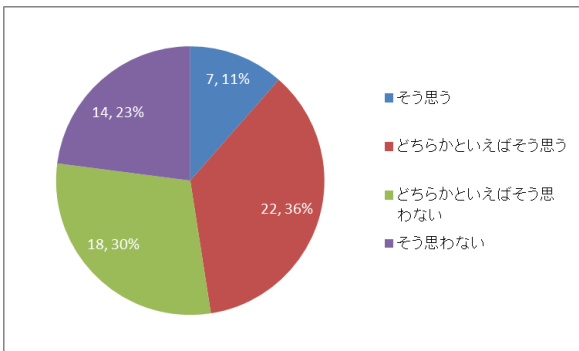
1. 年に1回程度 2. 数か月に1度 3. 1か月に1度 4. 1週間に数回 5. ほぼ毎回出席



	集計
ほぼ毎回出席	1
1週間に数回	13
1か月に1回	8
数か月に1回	11
年に1回程度	28
総計	61

7 キリスト教に関する授業や礼拝はあなたの考え方や大学生活に影響を与えていると思いますか。

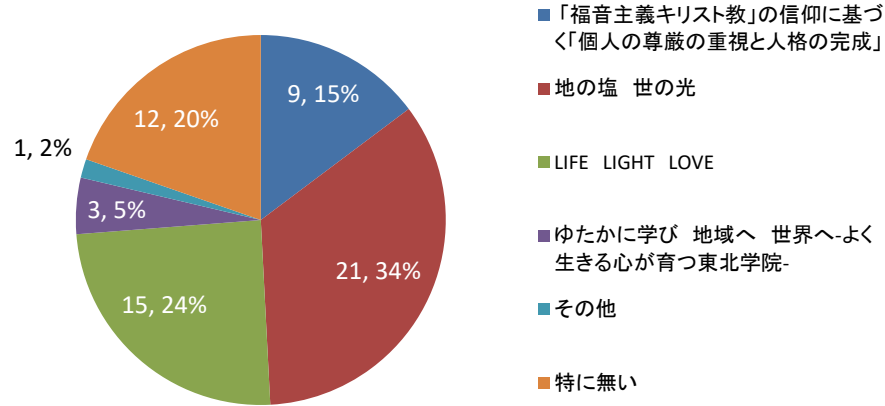
1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
そう思う	4		1	1		1	7
そう思わない	1	1	2	2	4	4	14
どちらかといえばそう思う	6	3	1		9	3	22
どちらかといえばそう思わない	2	4		1	3	8	18

8 東北学院大学を表す最初にイメージする言葉を1つ選んでください。

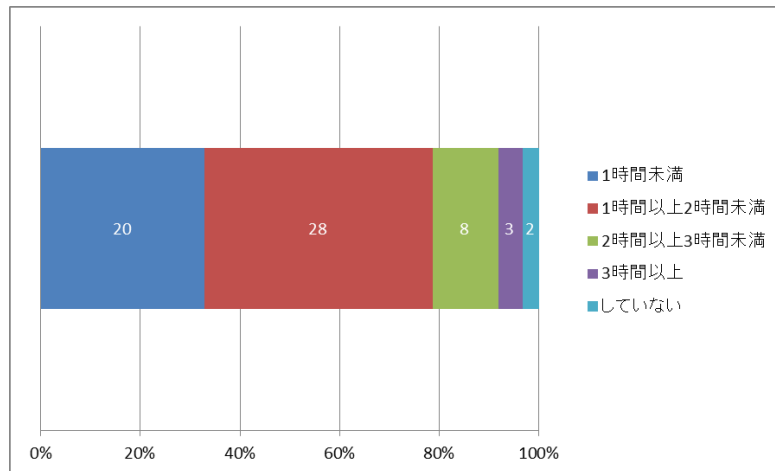
1. 「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」
2. LIFE LIGHT LOVE
3. 地の塩 世の光
4. ゆたかに学び 地域へ 世界へ-よく生きる心が育つ東北学院-
5. その他
6. 特に無い



	A0入試	TG推薦	センター試験	一般入試	指定校推薦入試	総計
「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」	1			2	6	9
地の塩 世の光	5		1	3	7	21
LIFE LIGHT LOVE	5		3	1	6	15
ゆたかに学び 地域へ 世界へ-よく生きる心が育つ東北学院-	1				2	3
その他			1			1
特に無い	1			4	5	2
総計	13		5	10	26	61

9 授業期間中で予習復習やレポート作成のための時間（1日あたり）。

1. していない 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
1時間未満	3	1	3	2	4	7	20
1時間以上2時間未満	7	5	1	2	6	7	28
2時間以上3時間未満	3	1			3	1	8
3時間以上					2	1	3
していない		1				1	2
総計	13	8	4	4	16	16	61

	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上	していない	総計
1年	3	9	1		1	14
2年	2	3	3			8
3年	4	12	1	2	1	20
4年	11	4	3	1		19
総計	20	28	8	3	2	61

※シラバスには

「1科目(2単位)で週に予習2時間、復習2時間を要する」と記載

10 授業期間中で自分の知識・能力を高めるための学習や読書等のための時間（1日あたり）。

1. していない 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上

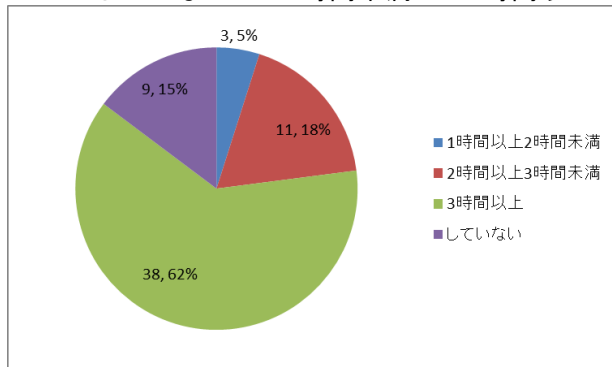
	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
1時間未満	6	6	3		9	10	34
1時間以上2時間未満	7		1	2	4	3	17
2時間以上3時間未満				1			1
3時間以上						2	2
していない		2		1	3	1	7
総計	13	8	4	4	16	16	61

	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上	していない	総計
1年	8	4				14
2年	4	3			1	8
3年	11	6		1	1	20
4年	11	4				19
総計	34	17	1	2	7	61



**11 授業期間中でアルバイトに従事する時間（1日あたり）。**

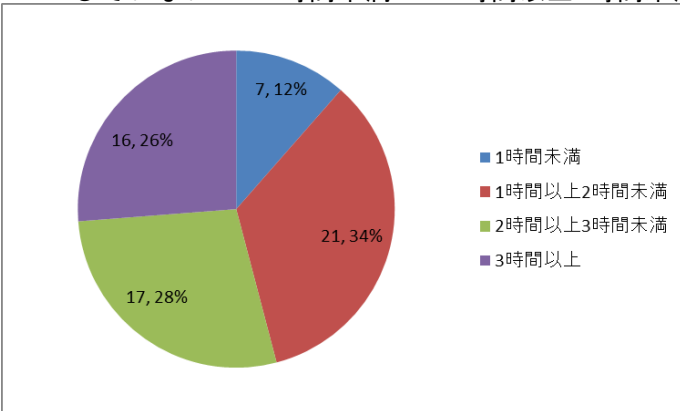
1. していない 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
1時間以上2時間未満		1			1	1	3
2時間以上3時間未満	2	1		1	5	2	11
3時間以上	7	5	3	3	9	11	38
していない	4	1	1		1	2	9
総計	13	8	4	4	16	16	61

**12 授業期間中でSNS・インターネット・メール・ゲームを使う時間（1日あたり）。**

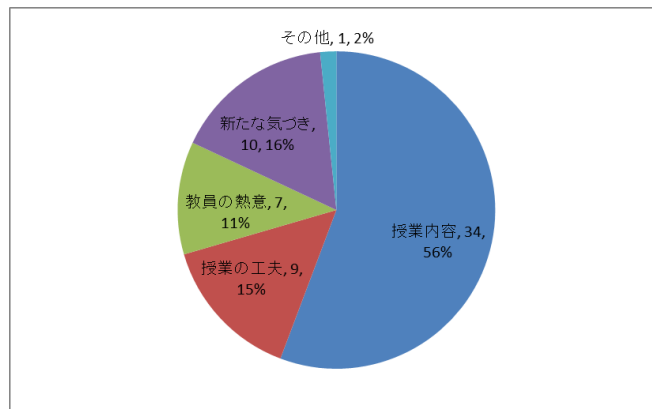
1. していない 2. 1時間未満 3. 1時間以上2時間未満 4. 2時間以上3時間未満 5. 3時間以上



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
1時間未満	2	1		1		3	7
1時間以上2時間未満	4		1	2	10	4	21
2時間以上3時間未満	2	3	2		5	5	17
3時間以上	5	4	1	1	1	4	16
総計	13	8	4	4	16	16	61

13 よい授業だと感じる要素のうち、最も大きいものを選んでください。

1. 授業内容 2. 授業の工夫 3. 教員の熱意 4. 新たな気づき 5. その他

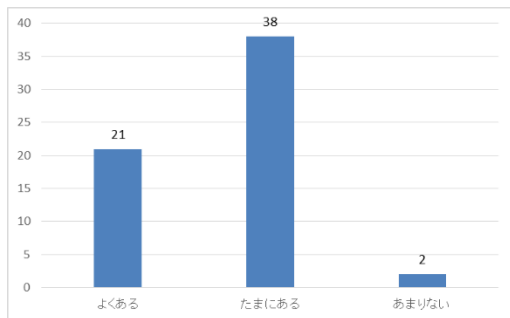


	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
教員の熱意	4				3		7
授業の工夫	2	3	1	1	1	1	9
授業内容	7	3	3	2	6	13	34
新たな気づき		1		1	6	2	10
その他		1					1
総計	13	8	4	4	16	16	61

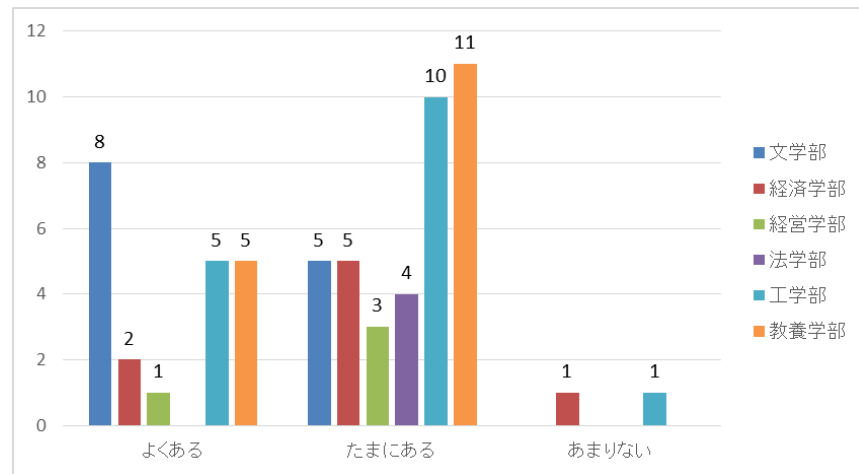
14 単位取得とは無関係に、学ぶことが楽しいと感じた授業はありますか。

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ない

	集計
よくある	21
たまにある	38
あまりない	2
総計	61



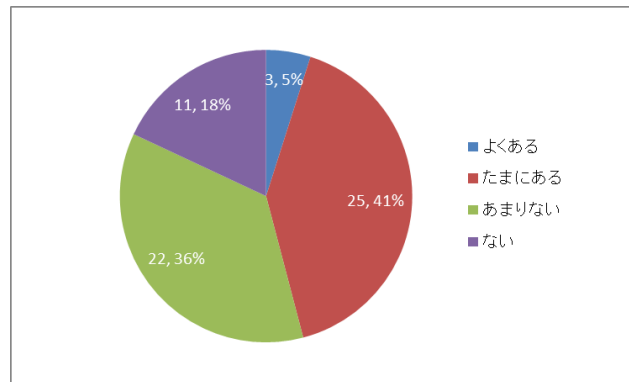
	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
よくある	8	2	1		5	5	21
たまにある	5	5	3	4	10	11	38
あまりない		1			1		2
総計	13	8	4	4	16	16	61



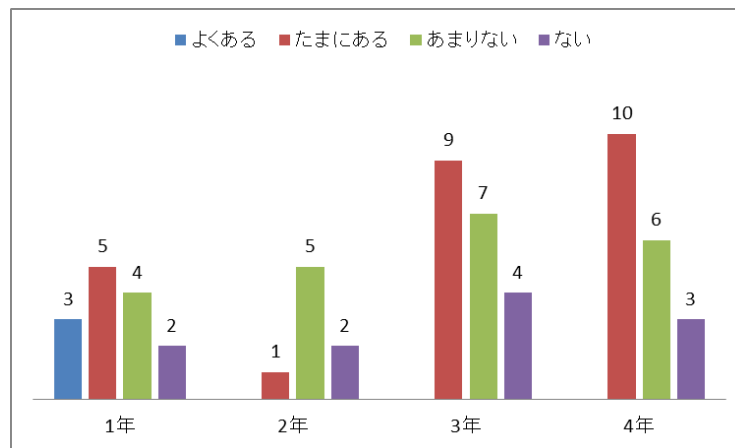
15 授業についていけないと感じることはありますか。

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ない

	集計
よくある	3
たまにある	25
あまりない	22
ない	11
総計	61



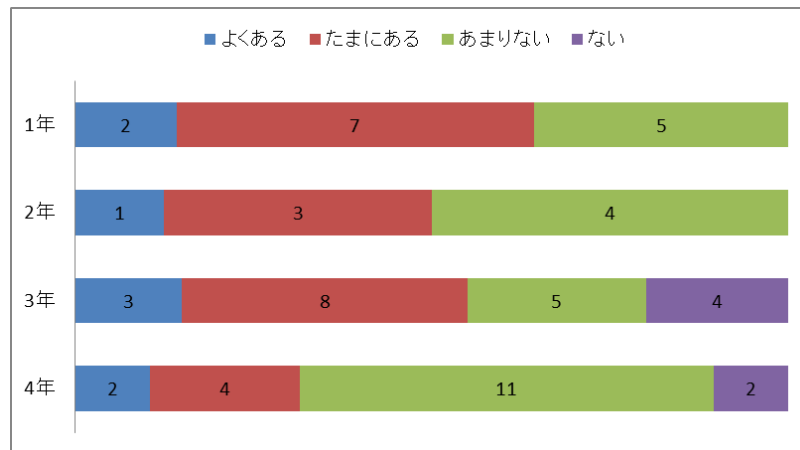
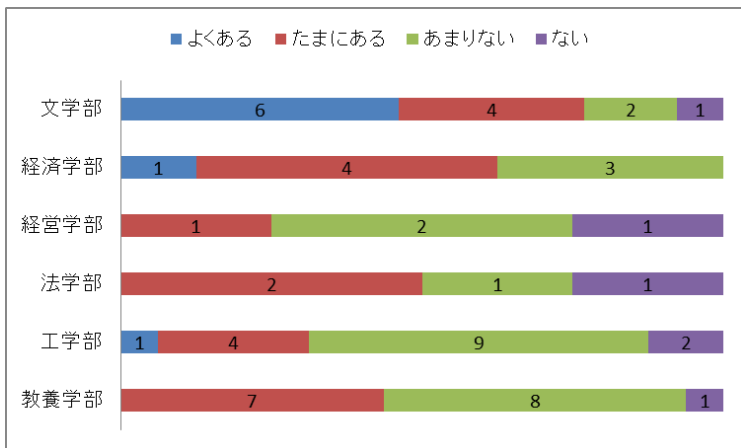
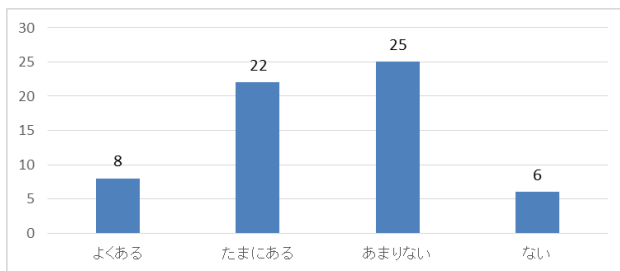
	よくある	たまにある	あまりない	ない	総計
1年	3	5	4	2	14
2年		1	5	2	8
3年		9	7	4	20
4年		10	6	3	19
総計	3	25	22	11	61



16 「人間としてのあり方を常に問う主体的で洞察力に富んだ思考力」が身につくと思う授業はありますか。

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ない

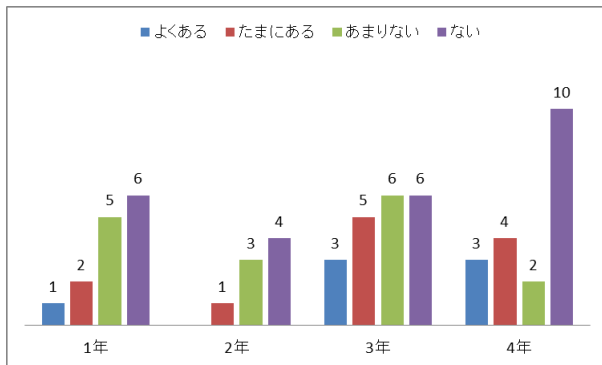
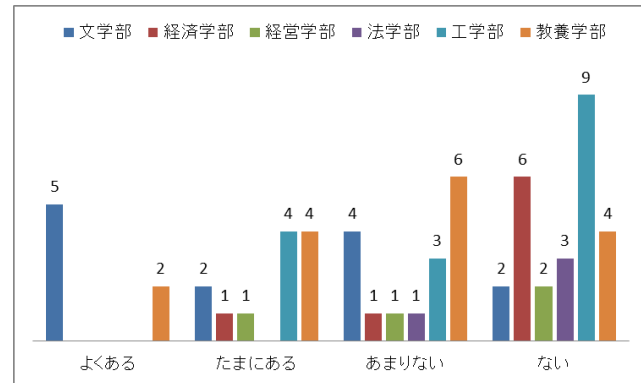
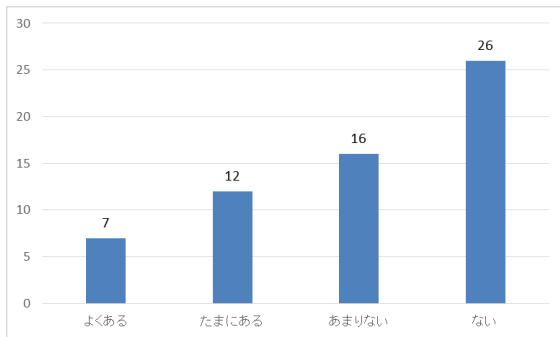
	集計
よくある	8
たまにある	22
あまりない	25
ない	6
総計	61



17 履修したい授業が履修できなかったことがありますか。

1. よくある 2. たまにある 3. あまりない 4. ない

	集計
よくある	7
たまにある	12
あまりない	16
ない	26
総計	61



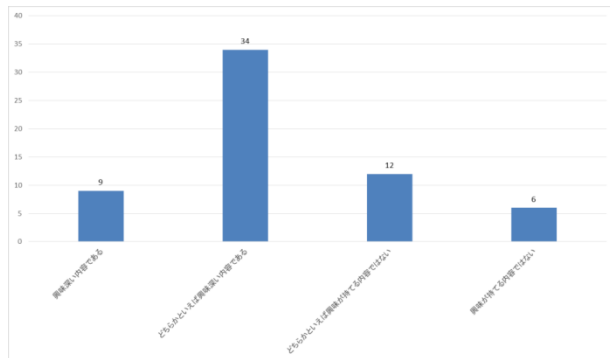
	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
よくある	5					2	7
たまにある	2	1	1			4	12
あまりない	4	1	1	1		3	16
ない	2	6	2	3		9	26
総計	13	8	4	4		16	61

19 全学部共通のTGベーシック科目の授業内容は興味深いものでしたか。また、その回答理由を書いてください。

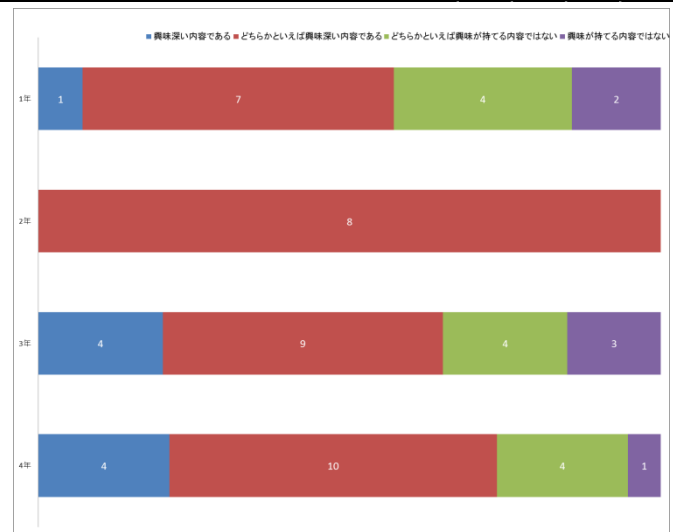
1. 興味深い内容である
2. どちらかといえば興味深い内容である
3. どちらかといえば興味が持てる内容ではない
4. 興味が持てる内容ではない

(回答理由を自由記述)

	集計
興味深い内容である	9
どちらかといえば興味深い内容である	34
どちらかといえば興味が持てる内容ではない	12
興味が持てる内容ではない	6
総計	61



	1年	2年	3年	4年	総計
興味深い内容である	1		4	4	9
どちらかといえば興味深い内容である	7	8	9	10	34
どちらかといえば興味が持てる内容ではない	4		4	4	12
興味が持てる内容ではない	2		3	1	6
総計	14	8	20	19	61

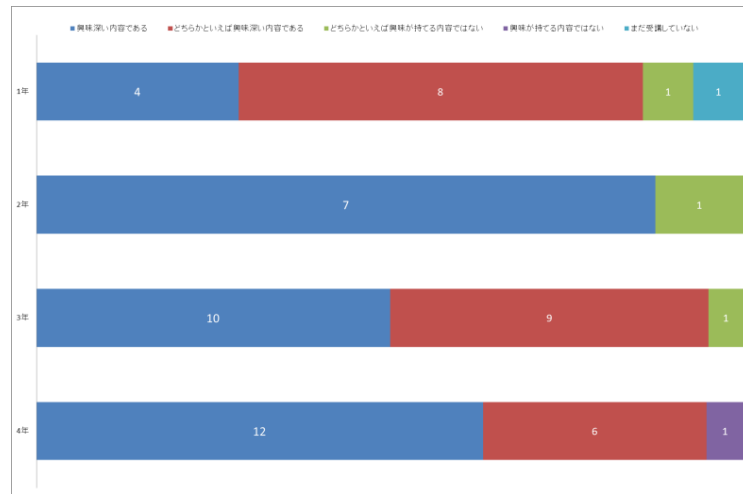
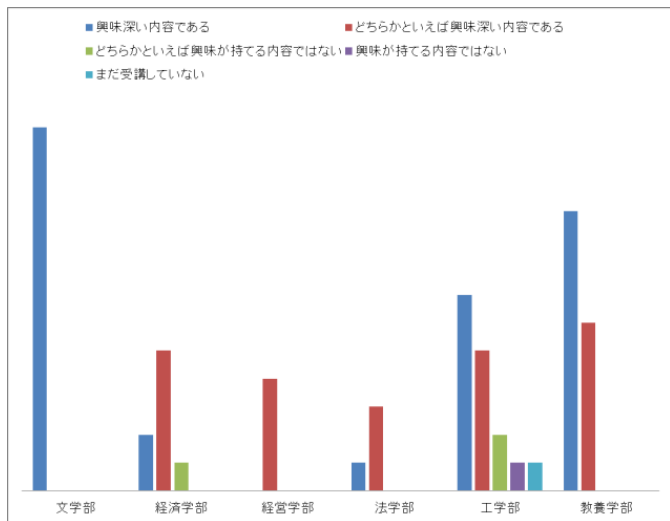


20 専門教育の授業内容は興味深いものでしたか。また、その回答理由を書いてください。

1. 興味深い内容である
2. どちらかといえば興味深い内容である
3. どちらかといえば興味が持てる内容ではない
4. 興味が持てる内容ではない
5. まだ受講していない

(回答理由を自由記述)

	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
興味深い内容である	13	2		1	7	10	33
どちらかといえば興味深い内容である		5	4	3	5	6	23
どちらかといえば興味が持てる内容ではない		1			2	3	3
興味が持てる内容ではない					1	1	1
まだ受講していない					1	1	1
総計	13	8	4	4	16	16	61



	興味深い内容である	どちらかといえば興味深い内容である	どちらかといえば興味が持てる内容ではない	興味が持てる内容ではない	まだ受講していない	総計
1年	4	8	1	0	1	14
2年	7	0	0	0	1	8
3年	10	9	1	0	0	20
4年	12	6	0	1	0	19
総計	33	23	3	1	1	61

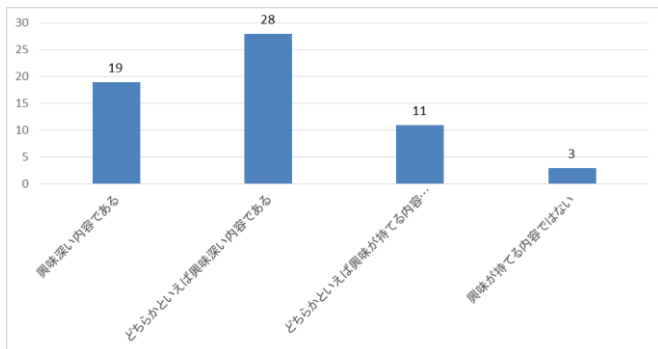


21 教養教育科目や外国語科目の授業内容は興味深いものでしたか。また、その回答理由を書いてください。

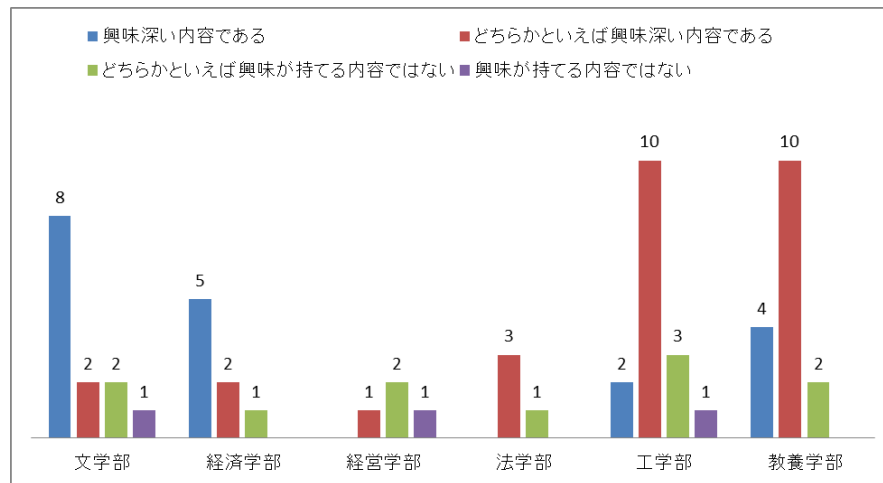
1. 興味深い内容である 2. どちらかといえば興味深い内容である  
3. どちらかといえば興味が持てる内容ではない 4. 興味が持てる内容ではない

(回答理由を自由記述)

	集計
興味深い内容である	19
どちらかといえば興味深い内容である	28
どちらかといえば興味が持てる内容ではない	11
興味が持てる内容ではない	3
総計	61



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
興味深い内容である	8	5			2	4	19
どちらかといえば興味深い内容である	2	2		3	10	10	28
どちらかといえば興味が持てる内容ではない	2	1	2	1	3	2	11
興味が持てる内容ではない	1		1		1		3
総計	13	8	4	4	16	16	61

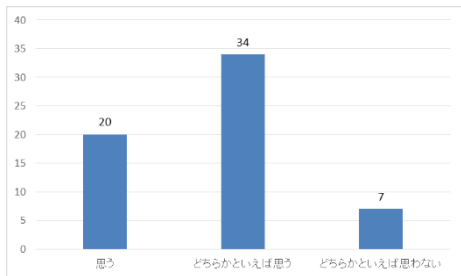


23 卒業後の進路選択にとって、現在のカリキュラムは役立っていると思いますか。

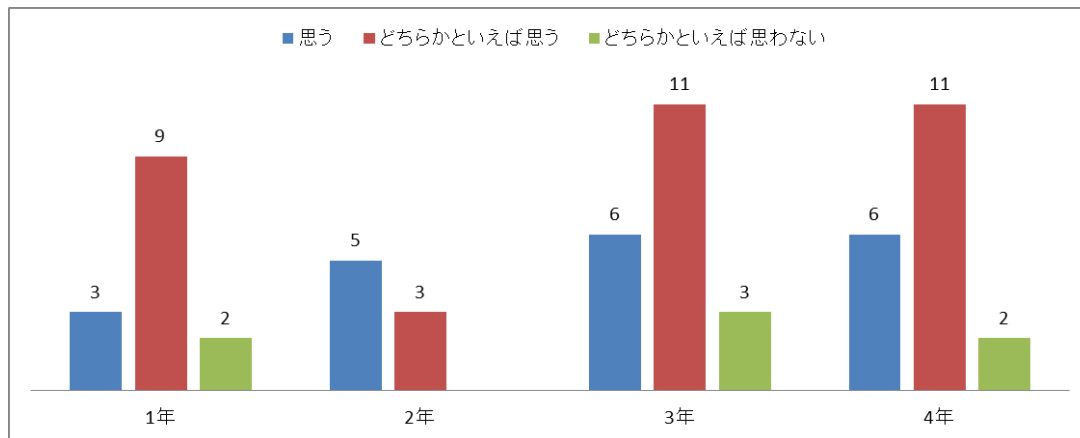
1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どうちらかといえば思わない 4. 思わない

	集計
思う	20
どちらかといえば思う	34
どちらかといえば思わない	7
総計	61

	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
思う	5	3		1	8	3	20
どちらかといえば思う	6	4	4	3	4	13	34
どちらかといえば思わない	2	1			4		7
総計	13	8	4	4	16	16	61



	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	総計
1年		3	9	2
2年		5	3	8
3年		6	11	3
4年		6	11	2
総計		20	34	7



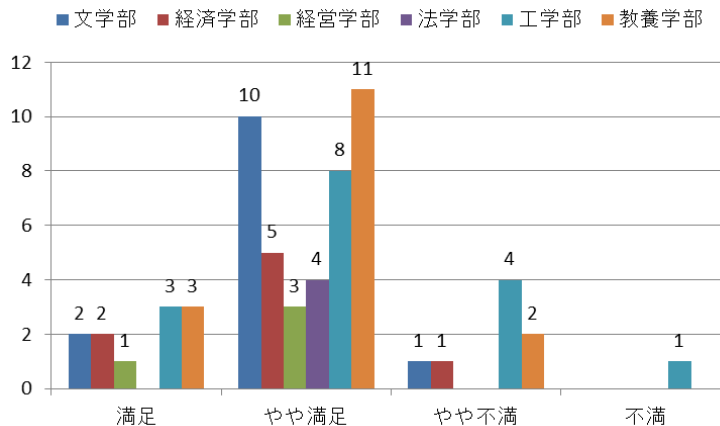
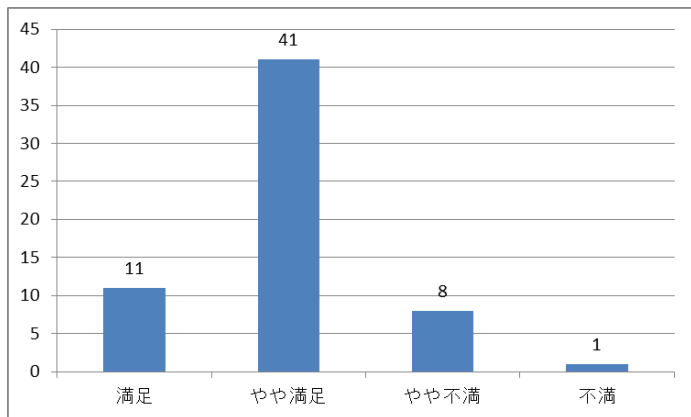
24 東北学院大学での学びの満足度（授業、manaba）とその理由について回答してください。

1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満

（回答理由を自由記述）

	集計
満足	11
やや満足	41
やや不満	8
不満	1
総計	61

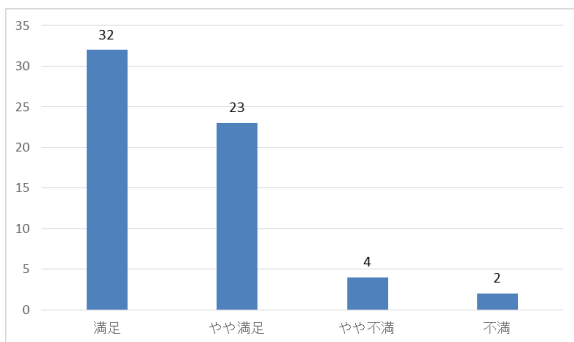
	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
満足	2	2	1		3	3	11
やや満足	10	5	3		4	8	41
やや不満	1	1				4	8
不満					1		1
総計	13	8	4		4	16	61



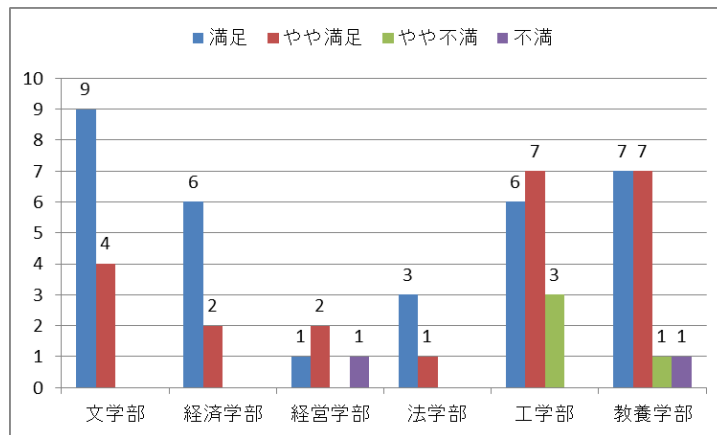
25 東北学院大学での学びの施設（図書館、教室、情報処理センター等）の満足度について回答してください。

1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満

	集計
満足	32
やや満足	23
やや不満	4
不満	2
総計	61



	満足	やや満足	やや不満	不満	総計
文学部	9	4			13
経済学部	6	2			8
経営学部	1	2		1	4
法学部	3	1			4
工学部	6	7	3		16
教養学部	7	7	1	1	16
総計	32	23	4	2	61

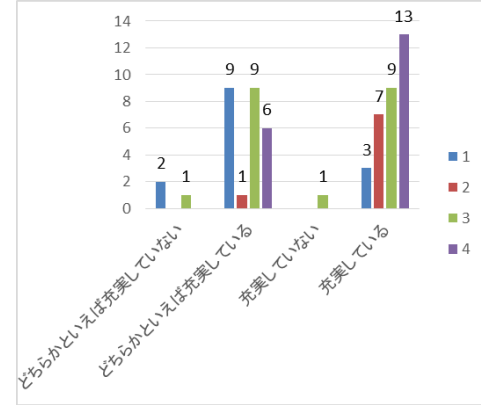


## 2. 【大学生活】

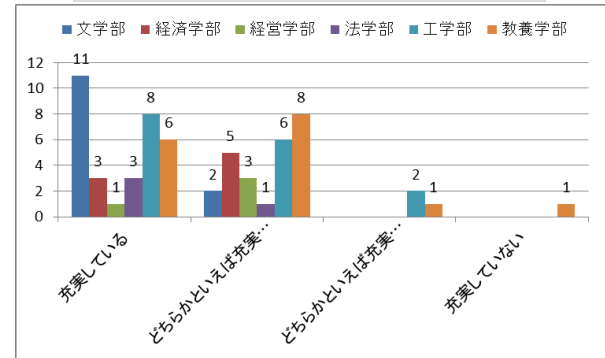
1 学生生活は充実していますか。

1. 充実している 2. どちらかといえば充実している 3. どちらかといえば充実していない 4. 充実していない

	1年	2年	3年	4年	総計
どちらかといえば充実していない	2		1		3
どちらかといえば充実している	9	1	9	6	25
充実していない			1		1
充実している	3	7	9	13	32
総計	14	8	20	19	61



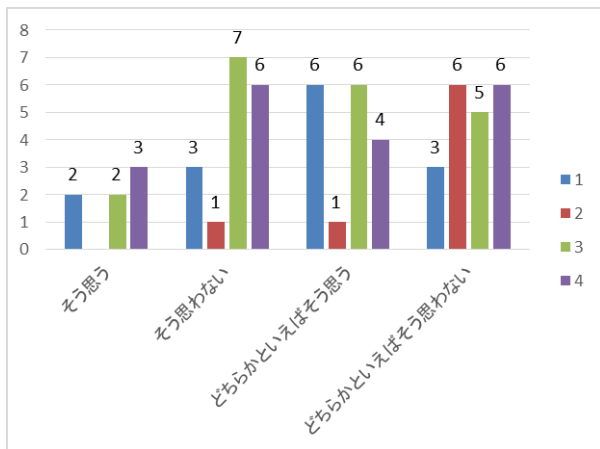
	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
充実している	11	3	1	3	8	6	32
どちらかといえば充実している	2	5	3	1	6	8	25
どちらかといえば充実していない					2	1	3
充実していない						1	1
総計	13	8	4	4	16	16	61



### 3 入学してから語学（英語）力がついたと思いますか。

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

	1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	2		2	3	7
そう思わない	3	1	7	6	17
どちらかといえばそう思う	6	1	6	4	17
どちらかといえばそう思わない	3	6	5	6	20
総計	14	8	20	19	61

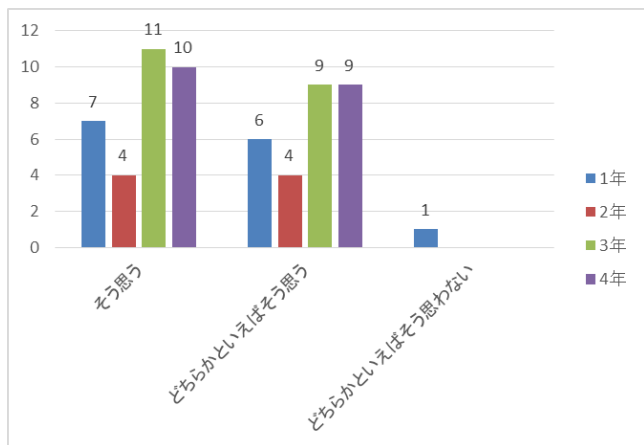


		1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	文学部			1	2	3
	経営学部	1				1
	教養学部	1		1	1	3
そう思う 集計		2		2	3	7
そう思わない	文学部			1	1	2
	経済学部	1	1	1	1	4
	経営学部			1	1	2
	法学部			1		1
	工学部	1		2	2	5
	教養学部	1		1	1	3
そう思わない 集計		3	1	7	6	17
どちらかといえばそう思う	文学部	2		1	1	4
	経済学部	1			1	2
	法学部	1				1
	工学部	1	1	2	1	5
	教養学部	1		3	1	5
どちらかといえばそう思う 集計		6	1	6	4	17
どちらかといえばそう思わない	文学部	1	2	1		4
	経済学部		1	1		2
	経営学部			1		1
	法学部		1		1	2
	工学部	1		2	3	6
	教養学部	1	2		2	5
どちらかといえばそう思わない 集計		3	6	5	6	20
総計		14	8	20	19	61

4 入学してから視野を広げ、物事を幅広く考えることが出来るようになったと思いますか。

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

	1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	7	4	11	10	32
どちらかといえばそう思う	6	4	9	9	28
どちらかといえばそう思わない	1				1
総計	14	8	20	19	61



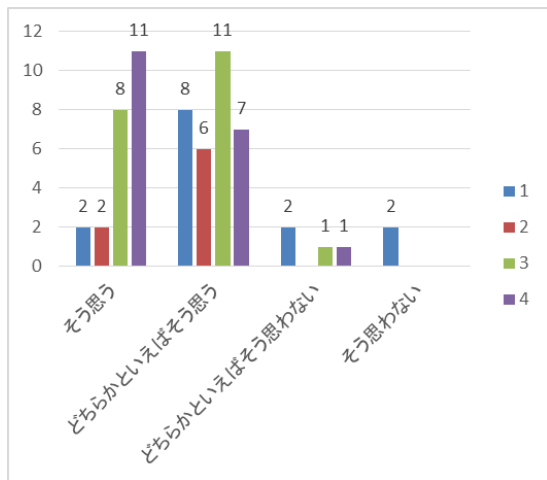
		1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	文学部	2	1	4	4	11
	経済学部		1		1	2
	経営学部	1				1
	法学部	1				1
	工学部	2	1	3	5	11
	教養学部	1	1	4		6
そう思う 集計		7	4	11	10	32
どちらかといえばそう思う	文学部	1	1			2
	経済学部	2	1	2	1	6
	経営学部			2	1	3
	法学部		1	1	1	3
	工学部			3	1	4
	教養学部	3	1	1	5	10
どちらかといえばそう思う 集計		6	4	9	9	28
どちらかといえばそう思わない	工学部	1				1
どちらかといえばそう思わない 集計		1				1
総計		14	8	20	19	61



5 入学してから自分の考えをまとめて表現できる力がついたと思いますか。

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

	1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	2	2	8	11	23
どちらかといえばそう思う	8	6	11	7	32
どちらかといえばそう思わない	2		1	1	4
そう思わない	2				2
総計	14	8	20	19	61

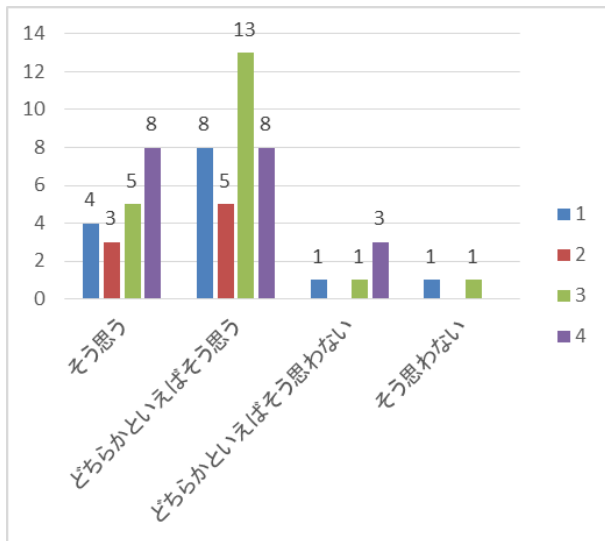


		1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	文学部	1	1	3	4	9
	経済学部				1	1
	経営学部	1			1	2
	法学部		1			1
	工学部			3	4	7
	教養学部			2	1	3
そう思う 集計		2	2	8	11	23
そう思わない	経済学部	1				1
	教養学部	1				1
そう思わない 集計		2				2
どちらかといえばそう思う	文学部	2	1	1		4
	経済学部	1	2	2	1	6
	経営学部			2		2
	法学部	1		1		2
	工学部	2	1	2	2	7
	教養学部	2	2	3	4	11
どちらかといえばそう思う 集計		8	6	11	7	32
どちらかといえばそう思わない	法学部				1	1
	工学部	1		1		2
	教養学部	1				1
どちらかといえばそう思わない 集計		2		1	1	4
総計		14	8	20	19	61

6 入学してからパソコンやインターネットを使いこなす力（ICTスキル）が身についたと思いますか。

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

	1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	4	3	5	8	20
どちらかといえばそう思う	8	5	13	8	34
どちらかといえばそう思わない	1		1	3	5
そう思わない	1		1		2
総計	14	8	20	19	61

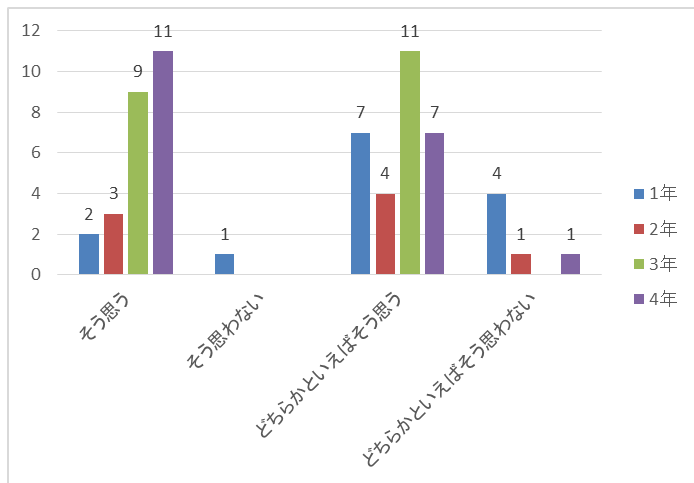


	1年	2年	3年	4年	総計
そう思う			3		3
経済学部		1		1	2
経営学部	1				1
法学部	1	1			2
工学部	1	1	2	4	8
教養学部	1			3	4
そう思う 集計	4	3	5	8	20
どちらかといえばそう思う					
文学部	3	2	1	3	9
経済学部	2	1	2		5
経営学部			2	1	3
法学部				1	1
工学部	1		4	2	7
教養学部	2	2	4	1	9
どちらかといえばそう思う 集計	8	5	13	8	34
どちらかといえばそう思わない					
文学部				1	1
経済学部				1	1
教養学部	1		1	1	3
どちらかといえばそう思わない 集計	1		1	3	5
そう思わない					
法学部			1		1
工学部	1				1
そう思わない 集計	1		1		2
総計	14	8	20	19	61

7 入学してから相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応ができるようになったと思いますか。

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

	1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	2	3	9	11	25
そう思わない	1				1
どちらかといえばそう思う	7	4	11	7	29
どちらかといえばそう思わない	4	1		1	6
総計	14	8	20	19	61



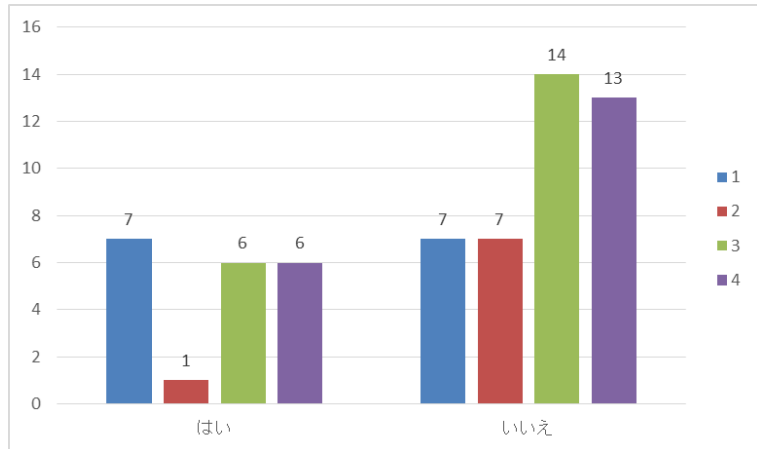
		1年	2年	3年	4年	総計
そう思う	文学部		1	3	3	7
	経済学部		1		2	3
	経営学部	1				1
	法学部			1		1
	工学部	1		2	5	8
	教養学部		1	3	1	5
そう思う 集計		2	3	9	11	25
そう思わない	工学部	1				1
そう思わない 集計		1				1
どちらかといえばそう思う	文学部	2	1	1	1	5
	経済学部	1	1	2		4
	経営学部			2	1	3
	法学部	1	1		1	3
	工学部	1	1	4		6
	教養学部	2		2	4	8
どちらかといえばそう思う 集計		7	4	11	7	29
どちらかといえばそう思わない	文学部	1				1
	経済学部	1				1
	工学部				1	1
	教養学部	2	1			3
どちらかといえばそう思わない 集計		4	1		1	6
総計		14	8	20	19	61

9 大学生活について入学前のイメージと現状に違いがありましたか。

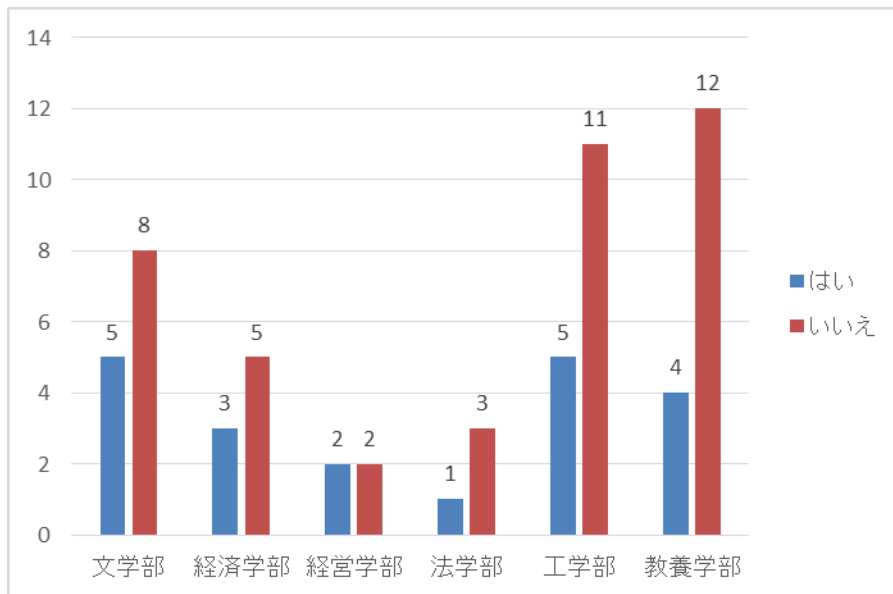
1. はい 2. いいえ

はい	20
いいえ	41
総計	61

	1年	2年	3年	4年	総計
はい	7	1	6	6	20
いいえ	7	7	14	13	41
総計	14	8	20	19	61



	はい	いいえ	総計
文学部	5	8	13
経済学部	3	5	8
経営学部	2	2	4
法学部	1	3	4
工学部	5	11	16
教養学部	4	12	16
総計	20	41	61

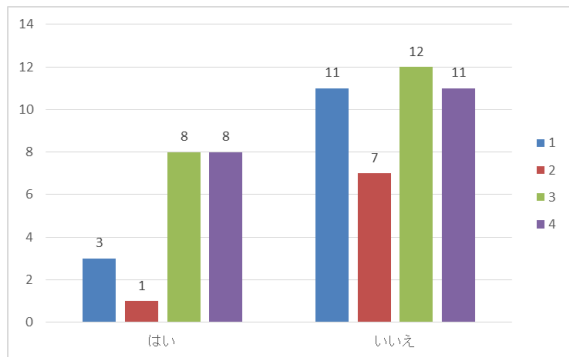


11 教員とはゼミや授業以外で接点がありますか。

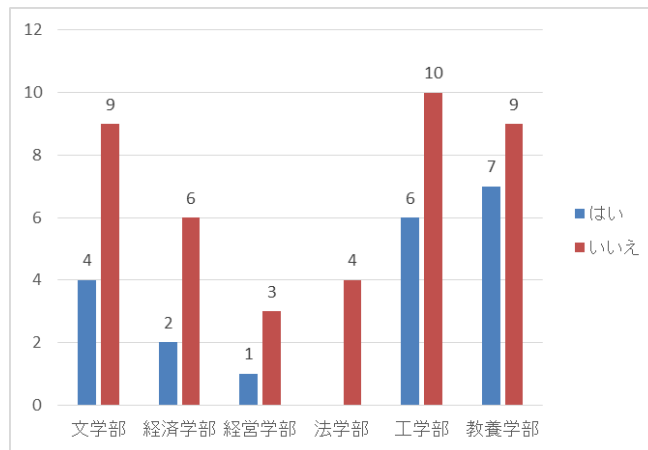
1. はい 2. いいえ

	集計
はい	20
いいえ	41
総計	61

	1年	2年	3年	4年	総計
はい	3	1	8	8	20
いいえ	11	7	12	11	41
総計	14	8	20	19	61



	はい	いいえ	総計
文学部	4	9	13
経済学部	2	6	8
経営学部	1	3	4
法学部		4	4
工学部	6	10	16
教養学部	7	9	16
総計	20	41	61

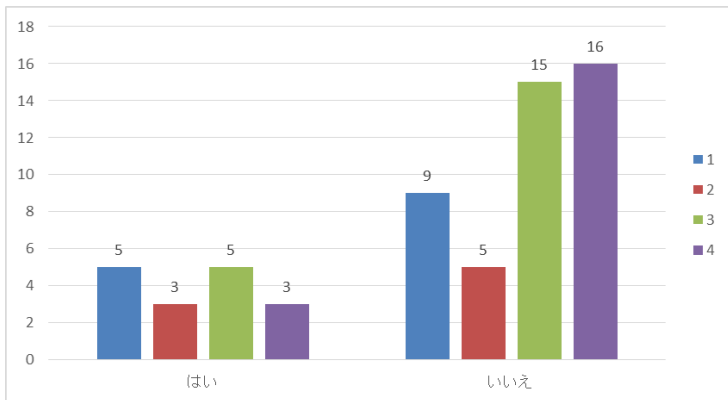


13 教員とゼミや授業以外で付き合う機会を持ちたいですか。

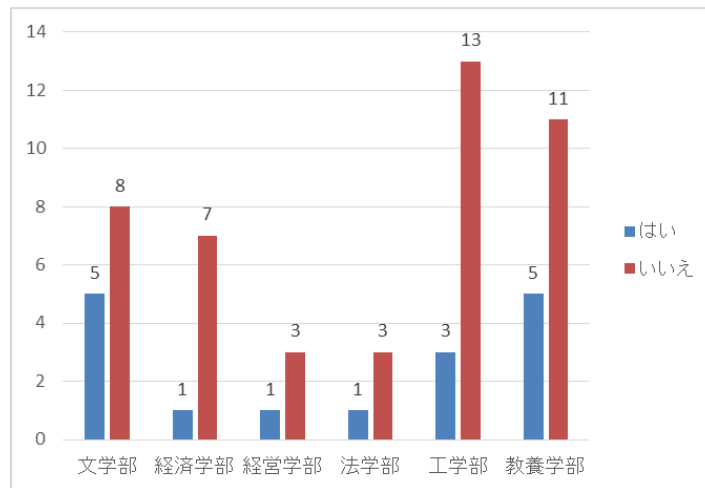
1. はい 2. いいえ

	集計
はい	16
いいえ	45
総計	61

	1年	2年	3年	4年	総計
はい	5	3	5	3	16
いいえ	9	5	15	16	45
総計	14	8	20	19	61



	はい	いいえ	総計
文学部	5	8	13
経済学部	1	7	8
経営学部	1	3	4
法学部	1	3	4
工学部	3	13	16
教養学部	5	11	16
総計	16	45	61



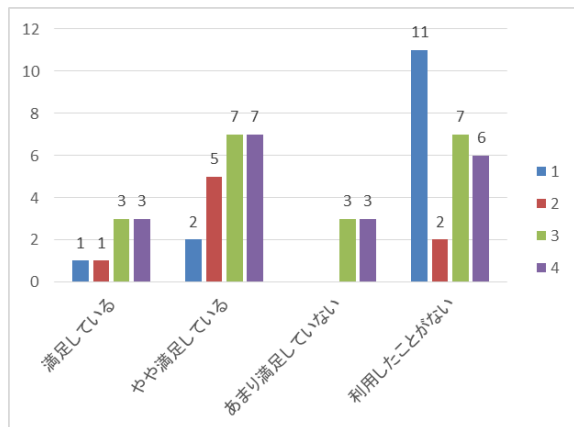
## 16 大学が提供する就職支援への満足度とその理由を教えてください。

1. 満足している 2. やや満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない 5. 利用したことがない

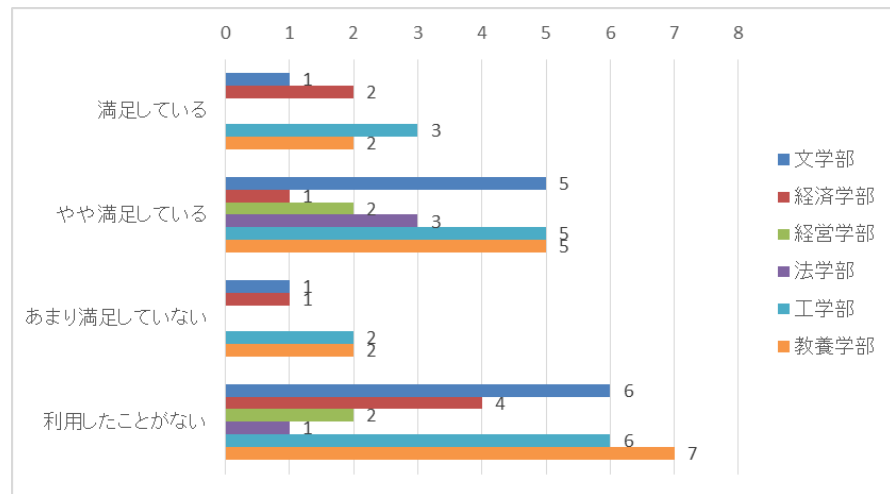
(回答理由を自由記述)

	集計
満足している	8
やや満足している	21
あまり満足していない	6
利用したことがない	26
総計	61

	1年	2年	3年	4年	総計
満足している	1	1	3	3	8
やや満足している	2	5	7	7	21
あまり満足していない			3	3	6
利用したことがない	11	2	7	6	26
総計	14	8	20	19	61



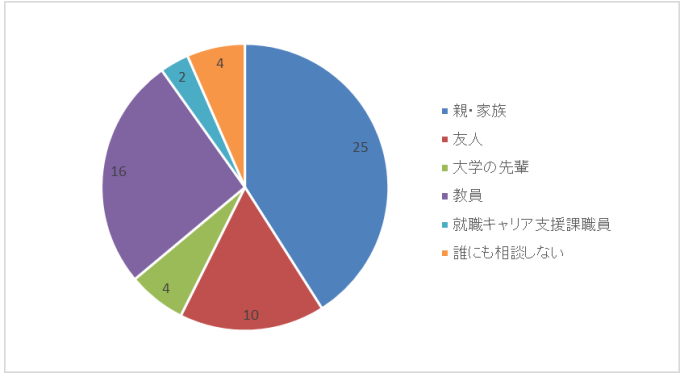
	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
満足している	1	2			3	2	8
やや満足している	5	1	2	3	5	5	21
あまり満足していない	1	1			2	2	6
利用したことがない	6	4	2	1	6	7	26
総計	13	8	4	4	16	16	61



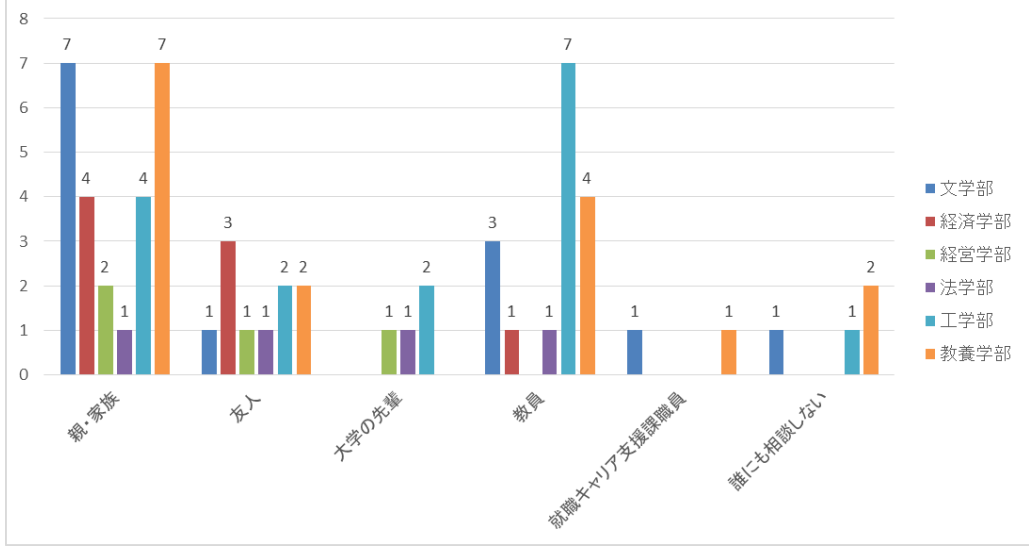
17 いま、進路（就職等）の相談をするとしたら誰に相談しますか。

1. 親・家族 2. 友人 3. 大学の先輩 4. 教員 5. 就職キャリア支援課職員 6. その他 7. 誰にも相談しない

	集計
親・家族	25
友人	10
大学の先輩	4
教員	16
就職キャリア支援課職員	2
誰にも相談しない	4
総計	61



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
親・家族	7	4	2	1	4	7	25
友人	1	3	1	1	2	2	10
大学の先輩			1	1	2		4
教員	3	1		1	7	4	16
就職キャリア支援課職員	1					1	2
誰にも相談しない	1				1	2	4
総計	13	8	4	4	16	16	61



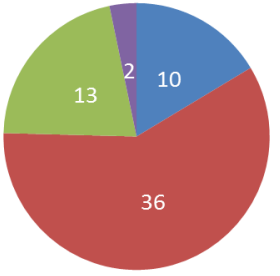


21 あなたは高校生に東北学院大学への進学を勧めたいと思いますか。また、その理由を教えてください。

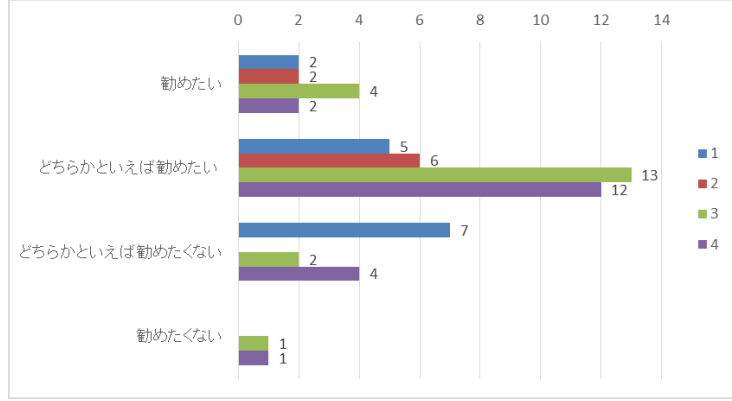
1. 勧めたい 2. どちらかといえば勧めたい 3. どちらかといえば勧めたくない 4. 勧めたくない

(回答理由を自由記述)

■ 勧めたい ■ どちらかといえば勧めたい  
 ■ どちらかといえば勧めたくない ■ 勧めたくない

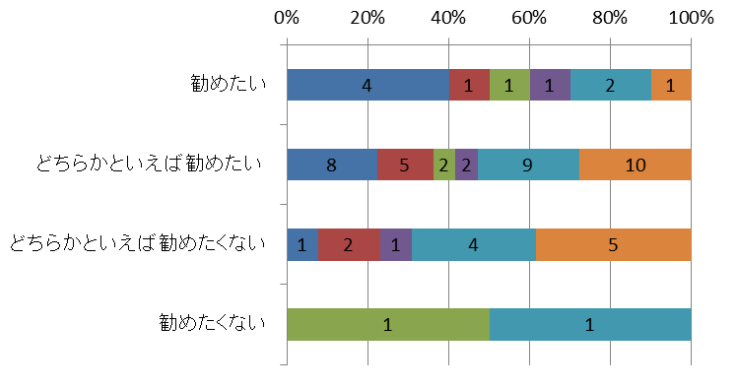


	1年	2年	3年	4年	総計
勧めたい	2	2	4	2	10
どちらかといえば勧めたい	5	6	13	12	36
どちらかといえば勧めたくない	7		2	4	13
勧めたくない			1	1	2
総計	14	8	20	19	61



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
勧めたい	4	1	1	1	2	1	10
どちらかといえば勧めたい	8	5	2	2	9	10	36
どちらかといえば勧めたくない	1	2		1	4	5	13
勧めたくない			1		1		2
総計	13	8	4	4	16	16	61

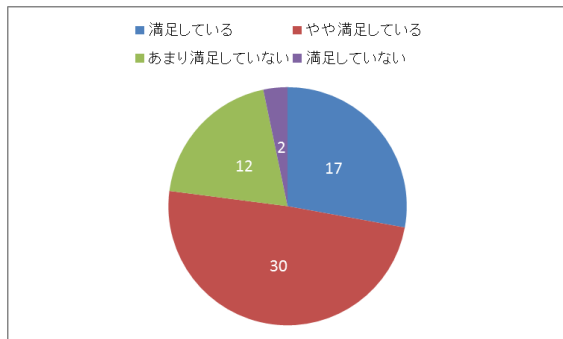
■ 文学部 ■ 経済学部 ■ 経営学部 ■ 法学部 ■ 工学部 ■ 教養学部



22 大学が提供する支援（大学生生活、経済支援等）についての満足度と理由を教えてください。

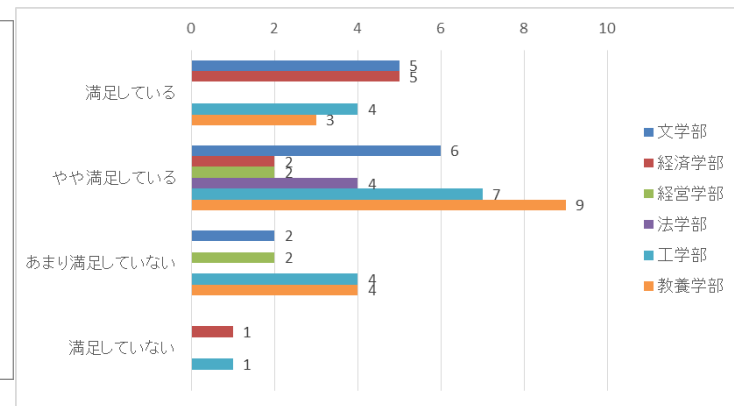
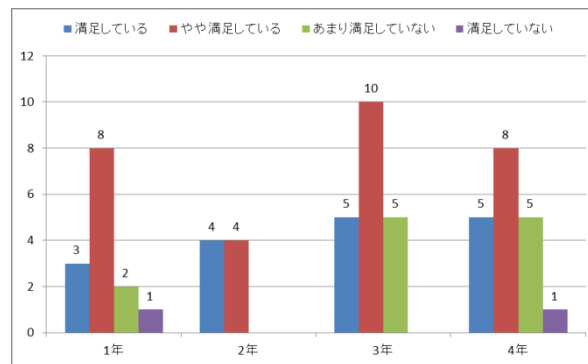
1. 満足している 2. やや満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

（回答理由を自由記述）



	1年	2年	3年	4年	総計
満足している	3	4	5	5	17
やや満足している	8	4	10	8	30
あまり満足していない	2		5	5	12
満足していない	1			1	2
総計	14	8	20	19	61

	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
満足している	5	5			4	3	17
やや満足している	6	2	2	2	4	7	30
あまり満足していない	2			2		4	12
満足していない			1			1	2
総計	13	8	4	4	16	16	61

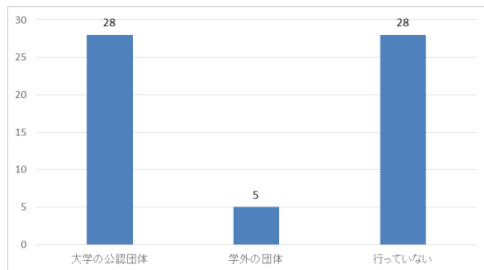


### 3. 【課外活動】

1 課外活動（部活動、クラブ・サークル）を行っていますか。

1. 大学の公認団体 2. 学外の団体 3行っていない

	集計
大学の公認団体	28
学外の団体	5
行っていない	28
総計	61

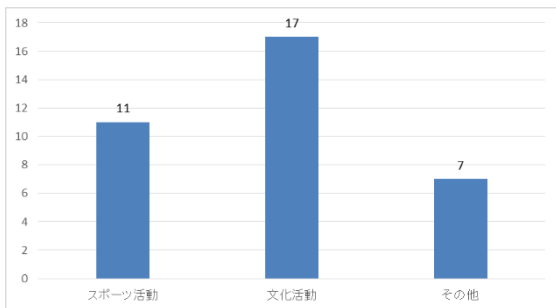


	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
大学の公認団体	5	4	3	3	9	4	28
学外の団体	1				1	3	5
行っていない	7	4	1	1	6	9	28
総計	13	8	4	4	16	16	61

2 1で1か2を選んだ方へうかがいます。どのような活動を行っていますか。

1. スポーツ活動 2. 文化活動 3. その他（ ）

	集計
スポーツ活動	11
文化活動	17
その他	7
総計	35

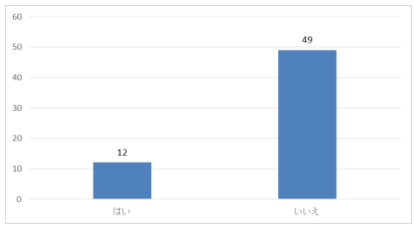


		集計
スポーツ活動	ソフトテニス	2
	体を動かすのが好きだから。また、体力維持	1
	未記入	8
スポーツ活動 集計		11
文化活動	ロックバンド部	1
	執行部、天文部	1
	泉区内で地域創生を考える	1
	大学生協の学生委員会	1
	未記入	13
文化活動 集計		17
その他	ボランティア、地域行事の参加	1
	委員会	1
	学園祭実行委員会	1
	学祭の実行委員	1
	学祭実行委員会	1
	行っていないが、選択肢にそのような回答が無かったため	1
	未記入	1
	その他 集計	
総計		35

**3 社会貢献（ボランティアやNPO活動等）といわれる活動をしていますか。**

1. はい 2. いいえ

	集計
はい	12
いいえ	49
総計	61



	文学部	経済学部	経営学部	法学部	工学部	教養学部	総計
はい	2	3			4	3	12
いいえ	11	5	4	4	12	13	49
総計	13	8	4	4	16	16	61

**4 3で「はい」を選んだ方へうかがいます。どのような活動をしているか記入してください。**

（自由記述）

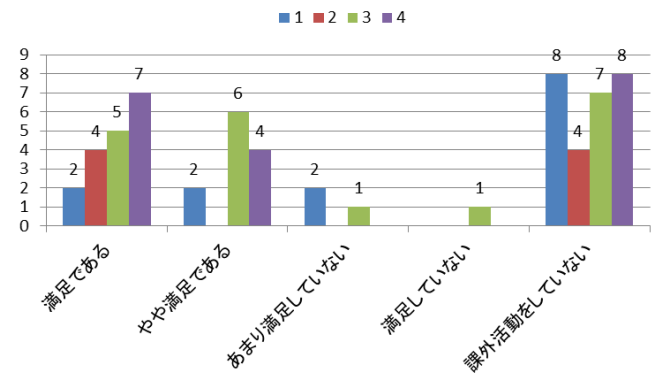
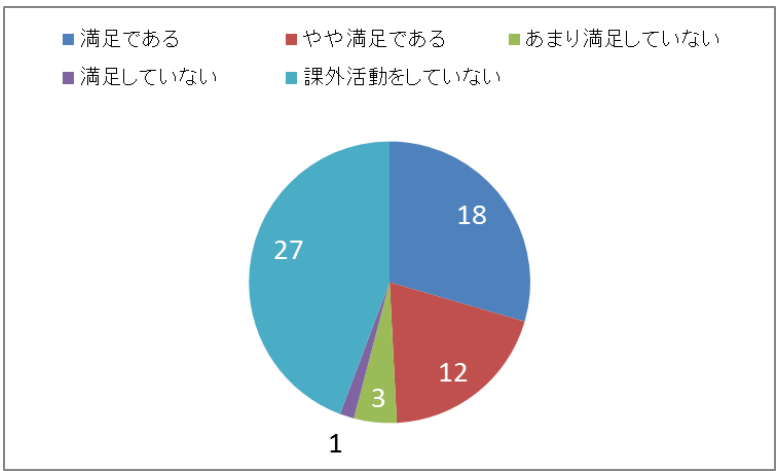
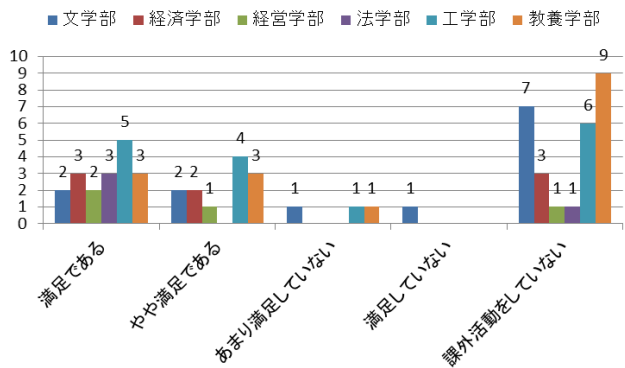
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんサークルに来ている未就学児と遊んだり見守りをしたりするボランティア</li> <li>・公園で子どもたちが自由な発想で遊ぶのを一緒に行なうボランティア</li> <li>・女川小学校の学び支援（先生のサポート）</li> </ul>
2年次に半年間移住してインターンをした女川町でのガイドや語り部、母校の多賀城高校 災害科学科からの依頼でプレゼンをしたり被災地語り部をしたりして来ました。また、個人としても、高校1年生より、国内外で自分の被災体験や防災の教訓を訴えるストーリーテリングの活動を続けています。
アスイク 教育支援
ボランティアとして、本学オリエンテーションリーダー活動をしている。
マクドナルドハウスで1ヶ月に1から2回程度 施設内の清掃やベッドメイキングなど様々なことをやっている。
広瀬川1万人プロジェクトに参加
小中学生への学習支援ボランティア
仙台市学生サポートスタッフで小学校の児童へのサポートをしています。
仙台市学生ボランティアとして出身中学校において部活指導を行っています。
被災地の漁業活動の手伝い
復興関連
新入生の大学生活をスムーズに始められるよう、サポートするオリエンテーションリーダーをしました。

5 課外活動をしている方にうかがいます。現在の活動に対する満足度とその理由を教えてください。

1. 満足である 2. やや満足である 3. あまり満足していない 4. 満足していない

(回答理由を自由記述)

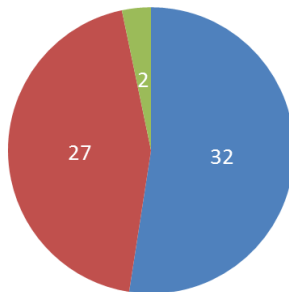
	集計
満足である	18
やや満足である	12
あまり満足していない	3
満足していない	1
課外活動をしていない	27
総計	61



- 7 課外活動と授業のバランスは取れていると思いますか。
1. とれている 2. 両立が難しい 3. 課外活動はしていない

	集計
とれている	32
課外活動をしていない	27
両立が難しい	2
総計	61

■ とれている ■ 課外活動をしていない ■ 両立が難しい



	大学の公認団体	学外の団体	行っていない	総計
とれている	25	4	3	32
課外活動をしていない	2		25	27
両立が難しい	1	1		2
総計	28	5	28	61

		大学の公認団体	学外の団体	行っていない	総計
とれている	スポーツ活動	9	2		11
	文化活動	12	2		14
	その他	4			4
課外活動をしていない	文化活動	1			1
	その他	1		2	3
両立が難しい	文化活動	1	1		2
総計		28	5	2	35



東北学院大学  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY



問 1.回答者

1年	2年	3年	4年	合計
13	8	20	18	59

問 2. 本日の学生インタビューについてどのように感じましたか。  
1つ選び○をつけてください。また、その理由をお答えください。

1.参加してよかった	27
2.どちらかといえば参加してよかった	29
3.どちらかといえば参加しなければよかった	2
4.参加しなければよかった	1
総計	59

1.参加してよかった

- 1) 自分の声を直接届ける良い機会だったから。
- 2) 色々な方の意見を聞いてよかったなと思います。
- 3) 大学の良いところ、悪いところ、どちらもみれたから。
- 4) 大学の現状を知れたから。
- 5) 他の学生の意見を聞いて、みることができ良かった。こういう人たちがいることを知ることができて良かった。
- 6) 自分の考えを述べる機会であると同時に、他の学生の考えも知れたので。
- 7) 学生の意見について知る事が出来たから。
- 8) 自分があまり使用していなかった学生課についてや、いろんな人が感じていることを知ることができたから。
- 9) 他の学生がどのように考えているのかを知れて興味深かった。統計も面白かった。
- 10) 外部の方が関わっていることが実感できたため。
- 11) 大学側に直接意見を言える機会がなかったから。
- 12) 様々な意見がきけたから。
- 13) 他学部の人の意見を聞いた。
- 14) 周りの学生がどう思っているのか分かった。
- 15) 同じ学生として自分と違う意識を持っている人がいることを再確認できたため。
- 16) 学校に貢献することができたから。
- 17) 自分自身も学生の生の声を聞くことができたから。
- 18) 学生の素直な意見を訴えることができたと思う。思っていたよりもはるかに充実していた。
- 19) 他の学生たちの生の意見が聞いてよかったから。
- 20) 深刻な問題があったが、それを直接聞いた学長がどう対応するか期待しているから。
- 21) 周りの学生からの様々な意見がおもしろかった。
- 22) 他の(他学科の)学生の意見が生で聞いてよかったから。
- 23) 色々な意見、考え方を知れたから。
- 24) 様々な学生の意見を聞いたから。
- 25) 学生が大学に対してどう思っているのか様々な意見を聞いてよかった。

2.どちらかといえば参加してよかった

- 1) 自分の意見を直接言えたから。
- 2) 大学側の真摯な対応を感じ取ることができた。
- 3) 直接大学側に言えて良かったと思う。ただ、問題に対して大学側の回答も欲しかった。
- 4) いろいろな学生の意見が聞いてよかったから。
- 5) 自分以外にも同じような考えを持っている人がいることが分かったから。
- 6) 特待生や優等生制度に不満を持っている人がほかにもいて共感できたから。
- 7) 大学について思っていることを伝えることができたから。
- 8) 他の学生の意見を聞いて良かった。
- 9) 不満だと感じる所が私だけではなく、他の人も感じていたから。
- 10) いろいろな学生の意見を聞いて良かったと思います。
- 11) 他の学生が普段どのような意見をもっているか知ることができる貴重な機会だったと感じる。
- 12) たくさんの意見を聞くことが出来るとても有意義でした。
- 13) 言いたくても言えないことを言える場であったから。
- 14) 各学部・各個人意見がきけて、学生をしても勉強になりました。
- 15) 色々な人の意見がきけたのがよかった。
- 16) QUOカードもらったので。
- 17) 様々なことを思っている人がいるのだとわかってよかった。

外部評価委員会事後アンケート集計結果

- 18) 学生の意見が公式に反映できる場であったから。  
 19) より詳しく意見を言うことができた。しかし、全て言えたとは言えないと思う。  
 20) 普段言えないことをresponを利用して言うことができた。  
 21) 普段なかなかお会いすることのできない委員の方々から質問を受けることは、貴重な機会だったから。  
 22) 外部評価の方がどのようなことに対して疑問を持っているかも知れたから。難しいかもしれませんが、私達が回答したものが、私達自身でも見れば良かったと思います。

4.参加しなければよかった

- 1) 何か意味がありましたか？意味があるように思えなかった。

問 3. インタビューで大学にもっと伝えたかったことはありますか1つ選び○をつけてください。また、その理由をお答えください。

1.ある	2.ない	計
10	49	59

1.ある

- 1) 言いたいことはありましたが、大勢の前ではということでないと思ったため。  
 2) 自分が大学で困っていることについて話したかったから。  
 3) キリスト・多様性、これらは他大学にもあること。大学で学ぶからには、自分をそして他の学生も“人生”について考えてがんばっていきたい。そうすれば、大学の特色も、もっと色濃く出てくると思う。  
 4) 上層部は学務の実情を理解しているのか？  
 5) 「学生のモチベーションが・・・」とおっしゃっていましたが、教員はどうか。学生側に押しつけるだけでは・・・と感じた。  
 6) 学部によって、進級条件や卒業条件が全く異なることです。  
 Ex.) 経済学部では卒業論文を書かなくても卒業可能。法学部では誰もが2年から3年生に上げられる。など。

2.ない

- 1) アンケートで言いたいことを言えたから。  
 2) 特に伝えたいことはない。  
 3) 特にありません。  
 4) 言いたいことは言えたと思うから。  
 5) 自分の意見はしっかり伝えられたと思う。  
 6) 自分の考えは伝えたので。  
 7) 十分伝えたから。  
 8) 伝えたいことは伝えられた。  
 9) 言いたい事は言えたから。  
 10) 意見を述べることができたため。  
 11) 今日挙げられた問題を解決することがのぞましいと思います。  
 12) 全てぐらいきかれたと思うから。  
 13) responに書きました。  
 14) ほとんどの意見は伝えられた。  
 15) responで言いたいことをいえたから。  
 16) 質問に全て含まれていた。  
 17) 言いたいことは全て言うことができた。  
 18) ありません。

問 4. インタビュー前に欲しかった情報はありますか1つ選び○をつけてください。また、その理由をお答えください。

1.ある	2.ない	計
15	44	59

1.ある

- 1) 結局何をするのか事前までよくわからなかった。  
 2) アンケート集計結果、要回収のためゆっくり最後まで見たいのに見れなかった。  
 3) ①終了時刻。大まかにでも知れていればこの後の予定もたてられてたので。  
 ②後方で学院大学の先生方も参加する点。

- 4) レスポンがメインだということを書いてほしかった。  
インタビューという名前なので、直接聞かれることが多いのかと思った。
- 5) インタビューの形式についてより、より具体的な情報が欲しかった。
- 6) 教授に言われて来たのですが、主旨が伝わっていなかった。
- 7) 3時限目の講義時間と受付開始がかさなること。
- 8) どの様な質問がくるのか事前に知りたかった。
- 9) すべてmanabaで行うと思い込んでいた。事前に質問を考えてくれればよかった。
- 10) レスポンスアプリと学校の連携の方法を詳しく教えて欲しかった。
- 11) 自分の回答が他の人に見られる事。
- 12) 土樋に来ないので場所がわからなかった。
- 13) レスポンスアプリのサーバ設定などよく説明がなかった。
- 14) responの使い方もPDFで欲しかった。
- 15) responの設定方法についての情報

2.ない

- 1) 当日の情報で充分だったから。
- 2) 特にない。
- 3) 特にありません。
- 4) 特に気にしてないから。
- 5) インタビュー前後で困ったことはなかったから。
- 6) 情報は十分あったから。
- 7) そのままでよいと思うため。
- 8) 余計なことを考えていないフラットな状態でインタビューに答えるべき。
- 9) 聞きたいことが網羅されていたから。
- 10) これ以上の情報があると公平にならなくなるように思う。

問 5.今後もこのような学外の方が学生の意見を聴き大学に提言する機会は必要だと思いますか1つ選び○をつけてください。また、その理由をお答えください。

1.そう思う	47
2.どちらかといえばそう思う	10
3.どちらかといえばそう思わない	1
4.そう思わない	1
計	59

1.そう思う

- 1) 人それぞれ考えることや思うことが違うと思ったから。
- 2) 言いたくても言えないことは多くあると思うため。
- 3) 大学側も外部の方からの意見を取り入れることにより、客観的に大学を見ることができると思うから。
- 4) 冷静に問題や課題について考えられると思うから。
- 5) よりよい大学にするため。
- 6) 真剣に悩んでいる学生がいたから。
- 7) 外部に学内の問題が漏れることは上の人たちにとっても好ましくないと思うが、こういう場で提言されてこそ解決することもあると思う。
- 8) 東北学院大に改善すべきことが多くあるから。
- 9) より良い大学になるために必要だから。
- 10) 大学の主体は学生であり、第三者の目も必要だから。
- 11) 改善する所はたくさんあると、今日参加して感じたから。
- 12) 紙でのアンケートより生の意見が聞けると思う。
- 13) ネットだけで会話する人が増えているから。正しい言葉を使う目上の人と話せる機会は何よりもコミュニケーションを磨く場所だと思うから。
- 14) 意見を通しやすいため。
- 15) 学生側も大学側も生の声を聴くことができる良い機会だと思うから。
- 16) はじめて知ったことが多かったから。
- 17) 人によっては切実な願いもあったようだから。
- 18) 学内だけでは見えないところが多いから。
- 19) 学生だけが感じる不満も多いと思う。
- 20) 大学に直接言っても意味がないと思う人がいると思うため。

- 21) 客観的に大学の状態をつかめる。
- 22) 大学は学生なしに成し得ないから。
- 23) 今回がかなり良いものだったから。
- 24) 学生が意見する場がないため。
- 25) 学校側に言いたいことを言える場であり、今後も続けて行ってほしいです。
- 26) こういう機会でないとなかなかいえないと思うから。
- 27) 学生からの生の意見がきけるから。
- 28) 上の人間が学生の生の声を聞くきかいは少ない。
- 29) 学生からの生の声を聞ける良い機会だと思う。
- 30) 学生の意見は毎回同じではないから。
- 31) 色々思っている人がいた。
- 32) お互いの為に必要であると思うから。
- 33) そういう場は必ず必要だと思う。
- 34) もっと率直に大学に「文句」いう場があるといいと思った。
- 35) 学内の方は学生と接する機会はそう多くはないと思うし、学生の声を聴く機会もほとんどない。だからこそ、学外の方が今回のような形で直接学生の声を聴いた上で学内の方や教授に伺える方が改善に繋がると思う。
- 36) 学外の方がどう思っているかは判りませんが、私は他の学生や学外の方の意見を聴くことができ参考になった。

2.どちらかといえばそう思う

- 1) 学生の率直な意見が聞けるから。
- 2) 外部が行うことによって議論しやすい環境になるため。
- 3) 第三者の客観的な視点が大学の改善に有効だと考えているから。
- 4) 本音で話す機会がほとんどないため。
- 5) 他学部の意見も聞いてみたいから。
- 6) 学生の意見を大学に直接提言する機会があってもいいと思った。
- 7) 特になし。
- 8) 学生の意見を提言できる場があるのはありがたいと思った。

3.どちらかといえばそう思わない

- 1) 学生のただの愚痴聞場のような感じだったため。何か言いたいことがあったら意見ボックスに書いて入れればいいと思う。一人当たり3000円のクオカードはいらぬ。

4.そう思わない

・回答無し

問 6.本日の外部評価委員会の運営で改善したほうがよいと思うことはありますか。1つ選び○をつけてください。また、その理由をお答えください。

1.ある	2.ない	計
17	42	59

1.ある

- 1) もう少しスムーズな進行であればよかったかなと思います。
- 2) 14時半開始なら、14時半から始めてもらいたい。
- 3) 時間が少なかったと思う。
- 4) 学生の気持ちについて考えるべきだと思うこと。
- 5) より意見を出させる必要がある。
- 6) 質問が抽象的すぎて答えづらい質問があった。
- 7) トイレ休憩に行ける空気じゃなかった。
- 8) 終了時間を明確にしてほしい。
- 9) 最後かけ足になっていたため、時間をもう少し伸ばしたほうが良いと思います。
- 10) 委員を待つ時間の意味が分からない。
- 11) もっと少人数でいいと思う。
- 12) 学内関係者の入場を少なくした方がより学生が率直に言えると思う。
- 13) 番号がよく見えないことがあった。
- 14) 正直、最初からレスポンスではなく直接学生にマイクを向けてインタビューしたほうが効率もよいし、文字では書き切れないとも言えたりするので、今後は積極的に学生から生の声を聴く方が良いと思った。
- 15) responを使ったことがない人がいるということをしかり考慮すべき。結局良い点しか見ていないですよ。要望を本当に消化してくれるのか心配。

## 外部評価委員会事後アンケート集計結果

あくまで学外の方に見せる用ではあるが、自分たちの回答が自分たちでは見えずらい。

- 16) 学生側の責任ですが、responをダウンロードしていたが使用できなく、外部の方を待たせてしまったので、始まる前にチェックしたほうが良かったかもしれません。

2.なし

- 1) 学生の意見を真剣に聞いてくれたから。
- 2) とてもスムーズだったため。
- 3) よかったと思います。
- 4) 特に見当らないから。
- 5) responを用いることで自分の意見をはっきり伝えられるし、他の学生の意見も見れて良かったです。
- 6) インタビュー内で困ったことはなく、また時間内に終了したため。
- 7) スムーズであったから。
- 8) しっかりとしていたから。
- 9) 大体予定通りのスケジュールで進んだから。
- 10) 特になし。
- 11) 特に不満に感じることはなかった。
- 12) スムーズであった。
- 13) 非常に良かった。
- 14) 第三者の公平な人が行っている意味のある会だったから。

問 7.事前アンケートに記述した以外に大学への期待・要望があればご記入ください。

- 1) 出した要望が伝わることを願っています。
- 2) 今回のアンケートで出た問題点をしっかりと改善してほしい。
- 3) 母子家庭なので大学に行けること自体が感謝。本も好きだし、もっと勉強して人生について考えていきたい。
- 4) ゼミのレベルを上げて欲しいです。自分の所属するゼミは多くの人は何を研究したいのか見付けてすらいのないのに希望して入ったというパターンです。もっとゼミのレベルを上げて専門性を高めてほしいです。
- 5) 生協に酪農カフェオレを常置してほしいです(土樋)。ある日とない日があるので。
- 6) 金あまりとらないで。
- 7) 今日出て感じましたが、学務への不満を持つ人が多いと感じたので改善してほしいと思います。
- 8) 本当に改善してほしい。
- 9) 大学の質を上げて欲しいです。一部の職員はひどいです。また、希望科目と実際の科目の設定ミスはやめてほしいです。